

## 資料

### 井上哲次郎『異軒日記—明治四十二年—』

村上 こそえ

谷本 宗生

#### 翻刻にあたって

前稿において、明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した井上哲次郎（一八五五—一九四四年）の日記『異軒日記』の一部（明治二六—二九、四〇、四一年）を紹介した。そこで本稿では同じく『異軒日記』明治四十二年分について引き続き紹介したい。なお、凡例については前稿で述べていることから割愛する。なお、本稿の翻刻作業にあたっては、室員の村上こそえが担当従事し、室員の谷本宗生が指揮確認を行っている。

#### 異軒日記

明治四十二年（西暦一九〇九） 上半期

一月

一日、午前、拝賀に宮中に赴き、尋いで青山東宮御所に赴く、○黒

田長成、小松原文相、樋山資之、中隈敬三、辻新次等と宮中に会见す、○不在中吉田熊次、浦谷熊吉来賀す、○井上成美、齋藤基次郎来賀す、○午后、新聞雑誌を読む、○夜、富山房より「国民百科事典」を送来る、○此日、来賀者総計百四拾四名、賀状端書参百参拾六枚、小封書五拾式通、大封書式拾式通、合計四百拾通、之を来賀数と合算すれば、五百五拾四、○東亜協会前年一月の特別会員数は百六拾七名、本年一月は参百八拾五名、増員式百拾八名、

二日、午前、年始状八拾九（葉書七四、小封一〇、大封五）来る、○間端吾、井上勃爾来る、○賀状を認む、○午后、年始に濱尾新、久保田讓、伊澤修二、菊池大麓、杉浦重剛、狩野亨吉、大塚保治、澤柳政太郎、三宅秀、箕作佳吉等二十五名に往く、○不在中堀田相爾来る、○賀状葉書五十四、小封九、大封六、合計六十九、○夜、「東亜の光」（三の一）を鍋島侯爵夫人、佐治実然、小松原文

相、甫守謹吾に送る、○夜、葉書十五、小封二、大封三、合計式拾、更に終日の分を合算すれば、葉書百四十三、小封二十一、大封十四、合計百七十八、○此日、来賀者総計六十一名、之を賀状と合算すれば、総計式百參拾九、○Takenobu Kikuchiより其著 Dialogue between a Missionary and a true Christianを送る、

三日、午前、賀状葉書四拾五枚、封書拾六通、合計六十一、○坂口進より林檎及蜜柑壹籠、常盤大定より林檎を送来る、○広池千九郎より絹地及原稿を送来る、○広井辰太郎より来状、○午后、齋藤儀八より来状、○賀状葉書拾六枚、封書四通、合計式拾、○浅倉屋より羊羹及び手帳二ツを送来る、○真浄寺より海苔を送来る、○井上成美来談す、○夜、年始状を認む、○賀状葉書六枚、封書三通、合計九来る、○此日の賀状総計九拾、○来賀者三十名、之を賀状と合算すれば百式拾、

四日、午前、山内契順及び広池千九郎より来状、○賀状、葉十二、封書三来る、○志水代次郎来訪し、状紙等壹箱を携来る、○午后、植田弥吉及び壽七妻来訪す、○貞松より老母の病氣を報道し来る、○賀状、葉書廿一、封書一来る、○夜、賀状、葉書十五、封書四、此日の賀状総計葉書五十八、封書八、合計六十六、○此日、来賀者三名、

五日、午前、浦谷熊吉来談す、○新年宴会に宮中に赴く、北里柴三郎、長井長義、柳谷謙太郎、田中芳男等と会见す、○午后、年始に、田中宮相、小松原文相、黒田侯爵、乃木希典、金子堅太郎、加藤弘之に赴く、○大倉書店より年玉を送来る、○夜、年始状を認む、

○此日、来賀者二名、賀状、葉書十七、封書二、合計十九、○帝國学士院及び歌劇大会より来状、

六日、午前、広池千九郎来訪す、○教界春秋を草し始む、○橋本節齋妻玉汝死去の報来る、○午后、書状を中村久吉に送る、○姉崎袖子及び樋口秀雄妻来訪す、○堀田相爾来談す、○夜、年始状を認む、○此日、鈴木文雄より「婦人病と水治法」を送来る、○賀状、葉書十、封書六、合計十六、○来賀者四名、

七日、午前、辻新次、齋藤儀八より来状、○活版所より哲学雑誌の校正を送来る、○校正をなす、○井上健児より玉子素麵を送来る、○午后、「勅語教本」二百部の奥附を晚成所に付与す、○哲学雑誌の校正を活版所に送る、○長峯浩、西澤之助の紹介状を携来り、鴨一羽を送る、○川田鍊弥、ころ柿を齋らす、○夜、書状を富田春山に送る、渡部董之介より書状及び書類来る、○間千代来談す、

○此日、賀状、葉書十、封書一、合計十一、

八日、午前、電話使用料一六、五〇を郵便局に納む、○午后、荏原郡教育会に品川東海小学校に赴き、戊申詔書に就き、講話をなす、川越守男、池田易之等と会见す、○夜、活版所より校正来る、○校正を活版所に送る、○此日、賀状、葉書拾枚、○新年の雑誌及び新聞に登載せる論文は左の如し、

戊申詔書と国民の覚悟……………教育時論  
 戊申詔書と国民教育……………教育界  
 意育論……………毎日電報  
 道德上の因果法……………東亜の光

戊申詔書に就いて……全上

道德と禁戒……修身

新年の遊戯は何が宜いか……女鑑

九日、午前、浦谷熊吉来訪す、○午后、永代静雄、友枝高彦来訪す、

○「福音書大観」を読む、○夜、スガ子、吉田宅に赴く、○「福

音書大観」及び「伊勢神宮」を読む、○此日、賀状、葉書九、封

書四、合計十三、

十日、午前、岩橋遵成、秋山悟庵、大森万次郎、井上成美、吉田雪

子来訪す、○夜来雪積りて満都銀世界を成す、○午后、「福音書

大観」を読む、○夜、ゆにてりあん協会に赴き、「日本に於ける

宗教の統一」を演述す、○細見保及び桑木巖翼より絵端書来る、

○新見吉治及び朝鮮研究会より来状、○此日、賀状、葉書五、封

書一、○鵜飼祐式、田中敬来訪す、

十一日、午前、講義に大学に赴く、○川越守男、島田則正、御礼の

為に浅草苔を携来る、○建部遜吾より「戊申詔書衍義」を、帝国

大学より「大日本史料」を送来る、○午后、小柳司氣太より鴨壱

羽と書状とを送来る、○浦谷熊吉、深作安文来訪す、○新村出よ

り絵端書を送来る、○国語調査会より「送仮名法」を送来る、○

丙午出版社より「宗教学綱要」及び「聖徳太子伝」を送来る、○

夜、書状を岩田僊太郎に送る、○山口志げ及び英爾来る、○石蔵

太兵衛より絵端書を送来る、○此日、賀状、葉書四枚、

十二日、午前、平川泉吉来訪す、○午后、小西重直、相原一郎介、

上野陽一來訪す、○書状を小林一郎に送る、○Wundt, Einleitung

in die Philosophie を読む、○夜、引続き Wundt を読む、○石川

安次郎より絵葉書来る、○此日、「戊申詔書に就いて」丁酉倫理

に出づ、○鵜飼祐式来訪す、○賀状、葉書二枚来る、

十三日、午前、広池千九郎、富田春山、山崎末吉より来状、○学習

院に赴く、○午后、大学に哲学字彙の会に赴く、○夜、岩田僊太

郎、大島直治より来状、○此日、雪、○「儒教の長所短所」哲学

雑誌に出づ、○賀状、封書一、葉書一、○富田政喜より縫子に書

状を送来る、

十四日、午前、井上成美来談す、○Wundt, Einleitung in die

Philosophie, Kulte, Einleitung in die Philosophie を読む、○午

後、講義に大学に赴く、○小林一郎、植田弥吉より来状、○夜、「福

音書大観」を読む、○口提督逝く、

十五日、午前、浦谷熊吉及び相原一郎介の使者来る、○中村桐香よ

り来状、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中齋藤庸一郎

来訪す、○国書刊行会より書籍二冊送来る、○夜、東洋大学の筆

記を訂正す、○此日、賀状、葉書二、○井上秋夫、東亜協会々員

となる、

十六日、午前、「東洋哲学」の原稿を飯田堯二に送る、○原秀四郎

の原稿を一読し、之を浦谷ふみに托す、○午后、「儒教の長所短

所」を坂本嘉治馬に送る、○山崎直三より Illustration 一冊、岡

部為吉及び奥平清助より年賀状来る、○八木光貫より来状、○小

柳司氣太、堀田相爾、山本安之助来訪す、○「福音書大観」を読

む、○夜、引続き「福音書大観」を読む、○田中敬来訪す、○此

日、賀状、葉書二、

十七日、午前、得能文、松浦一、浦永茂助、河本猷藏、乃木希典及び保険会社員来訪す、○東京市役所より来状、○午后、田中敬及び帝国教育会より来状、○森山波藏、宮崎虎之助の紹介状を携来る、○尾上八郎より書状と乾柿とを送来る、○大塚保治、枝元長夫来訪す、○益之進、吉田宅に至る、○端書を尾上八郎及び高島大円に、書状を八木光貫に送る、○夜、磯部武者五郎より速記と書状とを送来る、○「福音書大観」を読了す、○井上成美来談す、○此日、賀状、葉書二、

十八日、講義に大学に赴く、○松浦貞固、中村桐香より来状、○不在中清藤幸七郎、寺尾亨の書状を携へて来訪す、○雪ふる、○午后、浦谷熊吉来訪す、○中村直吉坂本太一郎の紹介を携へて来訪す、○書状を伊藤豊十に送る、○夜、書状を中村直吉、松浦貞固に送る、○須藤求馬、有馬祐政及び高島平三郎の詩文を添削す、○此日、宮中歌御会始あり、〔頁左部に「▲雪中松（御題）」の新聞記事切抜貼付〕

十九日、午前、「学生宝鑑」を伊藤豊十に送る、○文科大学より来状、○書状を野尻精一及び辻本卯藏に送る、○床屋に赴く、○午后、齋藤栄来訪す、○小石川区役所及び内山正如より来状、○書状を朝永三十郎に、「東亜の光」(三の一)を野尻精一に送る、○大日本統藏経二套を郵便局より受取る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○夜、深作安文及び松永武雄より来状、二十日、午前、学習院に赴く、○毎日電報社より来状、○午后、小

谷重来訪す、○夜、帝国教育会に赴く、○不在中浦谷熊吉来訪す、廿一日、午前、Külpe, Einleitung in die Philosophieを読む、○井上成美来談す、○午后、講義に大学に赴く、○小松原英太郎及び藤田苗より来状、○夜、石原即聞より来状、○山崎直三及び塩谷温より絵葉書来る、○井上成美、大町波野と結婚す、乃ち之に赴く、大町、的野、貝原夫妻と会見す、○此日、澤柳政太郎より「学修法」及び「教師及校長論」を送来る、

廿二日、午前、浦谷熊吉来談す、○Tolstoy, What is Art?を読む、○午后、湊をして大森房吉妻の葬式に築地に赴かしむ、○小谷重来訪す、○Tolstoy, What is Art?及び Hoffding, Psychologie in Umrissenを読む、○書状を牧瀬五一郎及び三宅米吉に送る、○「戊申詔書と小学教員」小学校に出づ、○夜、日之出生命保険会社より来状、乃ち之に返事を送る、○引続<sup>つ</sup> Hoffding, Psychologieを読み、又 Schopenhauer, Ergänzungsband を読む、○此日、富田政喜、書状を家妻に送来る、

廿三日、午前、Schopenhauer, Ergänzungsband を読む、○清藤幸七郎来訪す、○午后、音楽学校に赴き、帰途、博品館に立寄る、○夜、校正をなす、

廿四日、午前、浦永茂助、浦谷熊吉、田中鶴林来訪す、○内田融より絵葉書来る、○井上夫妻及び大町氏来訪す、○午后、黒龍会より「西南記伝」二冊を送来る、○林高美、福井嘉納来訪す、○真宗興正派より来状、○川浪道三、森山波藏来訪す、有<sup>り</sup>故不<sup>り</sup>遇、○夜、吉田雪子来談す、○研究、○此日、野村靖逝く、享年六十

八、

廿五日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、姉崎正治、川浪道三来訪す、○書状を川上瀧男及び伊藤六三に送る、○夜、佐野友三郎及び教科書会より来状、○「伊勢神宮」を読む、○千頭清臣より来状、○雨、○此日、大学より大日本史料一冊を受取る、廿六日、午前、書状を小松原英太郎に送る、○縫子、井上成美宅に赴く、○絵葉書を横矢重道、石川安次郎、弘丑彦、広田直三郎に送る、○所得税二四、九三、市税所得税附加二、一五、区費所得割一、○七、市街宅地租三、三七、合計三一、五二を区役所に納む、○午后、森良三郎来る、○教科書会より議案来る、○葉書を元良勇次郎及び中村直吉に送る、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○夜、Höfding, Psychologieを読む、○船越やす及び野村家の通知書来る、廿七日、午前、学習院に赴き、帰途野村家に赴く、○田中収吉より絵葉書来る、○高島円より来状、○午后、井上成美夫妻来る、○浦谷熊吉、牧瀬五一郎来訪す、○長府法度を乃木希典に返す、○朝永三十郎より来状、○同文館より御礼来る、○不在中深作安文及び長谷川福平来訪す、○西澤之助より来状、乃ち之に返事を送る、○夜、新聞雑誌を読む、廿八日、午前、有馬敬助、岩田僊太郎来訪す、○研究、○午后、講義に大学に赴く、○夜、小松原文相の招燕に官舎に赴く、○不在中、尾上八郎、常盤大定来訪す、○青山胤通より来状、廿九日、午前、有馬敬助来訪す、○午后、教科會に赴く、○浦谷熊

吉、岩田僊太郎来訪す、○縫子、伊澤、笹川、姉崎、吉田宅に赴く、○弘道館より書状及び「系統的教育学」並に「教育教授の新潮」を送来る、○暁星学校より通知書来る、○夜、「東亜の光」口絵の解題を作り、「中学修身」を訂正す、

三十日、午前、浦谷熊吉、伊東尾四郎来訪す、○「中学修身」を訂正す、○内山正如より来状、○午后、野尻精一來訪す、○「中学修身」を訂正す、○ゆにてりあん教会より御礼来る、○夜、「家庭百科全書」の序を作る、○八木光貫より来状、○此日、萩原雲来、東亜協会々員となる、

卅一日、午前、尾上八郎、小林照朗、堀内尚同及び文学社手代鈴木某来訪す、○鈴木鏡幹の使者、書状を携へて来る、○午后、「家庭百科全書」の序を内山正如に送る、○富山房員某来談す、○深作安文妻来訪す、○文中子、淮南子及び張子の正蒙を読む、○夜、研究、○加藤駒二及び鶴清氣より来状、

二月

一日、午前、講義に大学に赴く、○富山房出版部より来状、○途上伊東尾四郎及び浅川雄太郎と会见す、○午后、坂本嘉治馬、常盤大定、浦谷熊吉、辻本卯藏、姉崎増子等来訪す、○夜、教科書会より来状、○此日、子爵田中不二磨逝く、○山内雄太郎、東亜協会々員となる、○本年一月中の来賀者及び賀状を通算するに、来賀者、総計式百四拾四名、賀状総計八百參拾八通、合計一千〇八拾一、○新年の到来物は如左、

菓物一籠

坂口前

海苔

真淨寺

林檎 常盤 乾柿 尾上  
 乾柿 山口志げ 乾柿 間  
 菓子及烟草具 樋口 鴨 小柳  
 菓子 小林照朗 鴨 長峰浩  
 海苔二箱 荏原郡教育会 羊羹及手帳二ツ 浅倉屋  
 林檎 姉崎袖子 状紙 志水代次郎  
 玉子素麵 井上健児 ころ柿 川田鉄弥  
 シヤツ一ツ 黒田家 菓子 秋山悟庵  
 菓子 大森万次郎 千代袋 大町  
 二日、午前、内山正如より来状、○富山房編輯部の使者来る、乃ち之に「朱子哲学」を付与す、○「東垂の光」(四の二)成る、富山房より拾部を送来る、○文明協会より「社会政策二論」を送来る、○午后、小谷重、堀田相爾、吉田雪子来訪す、○田中経太郎、東亜協会々員となる、○夜、Höfding, Psychologie in Umrissen 及び大道本義を読む、○吉田熊次来訪す、  
 三日、午前、学習院に赴く、○小杉熙より書状及び蟹を送来る、○天海重喜より来状、○午后、大学の教授会に赴く、○宮内省の招待来る、○夜、青山胤通の招待に帝国ホテルに赴く、○小谷重より来状、○坂根某より絵葉書来る、○不在中浦谷熊吉来訪す、  
 ○「師範修身」六百八拾九部の奥附を金港堂に付与す、  
 四日、午前、「中学修身」五百部の奥附を文学社に付与す、○研究、  
 ○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、政教社より「宇宙」を送来る、○今泉丈助より来状、○講義に大学に

赴く、○Zeller, Philosophie der Griechen を読む、○山口志げ来る、○夜、田中知邦より来状、○浦谷熊吉来訪す、○新聞雜誌を読む、○此日、長谷川志ぐれ子、東亜協会々員となる、  
 五日、午前、森良三郎、東敬治来訪す、○淮南子を読む、○在米国の石橋友次郎、島本愛之助、蠣瀬彦蔵より絵葉書来る、○在独国の宇野哲人より来状、○午后、Tolstoy, What is Art? を読む、○満岡久馬、落合昌太郎、八木光貫来訪す、○夜、金港堂の招待に茗溪会に赴き、全国師範学附属小学校主事に対し、「国民道德」に就いて一場の演説をなす、○茗溪会に於て服部宇之吉、宮川壽美子、片桐佐太郎、関靖と会见す、○広池千九郎、帝国教育会等より来状、○富田春山より縫子に書状を送来る、  
 六日、午前、山鹿旗之進より来状、○勉強、○午后、音楽学校に赴く、○不在中岡本碩翁、吉田豊吉来訪す、○常盤大定より書状及び蟹を送来る、○夜、日本学会に赴く、盛況なり、○不在中平岩愼保来訪す、  
 七日、午前、補永茂助、齋藤精輔、水島耕一郎、大島正徳、東海林辰三郎、加藤玄智、森山波蔵、藍公武、秋山悟庵来訪す、○浦谷熊吉、講習会草案を携へて来る、○「師範修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、清水駿太郎来訪す、○淮南子を読む、○書状を毎日電報社に送る、○夜、勉強、  
 八日、午前、講義に大学に赴く、○有楽社より来状、○午后、「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○宣光微恙に嬰る、井上成美来診す、○「伊勢神宮」を読む、○三

宅米吉及び文科大学より来状、○書状を小杉熙及び常盤大定に送る、○夜、広池千九郎より電報来る、○平岩愼保来訪す、○「伊勢神宮」を読む、○此日、服部宇之吉、文科大学教授となる、○小林義則外一人東亜協会々員となる、

九日、午前、電報を広池千九郎に送る、○「伊勢神宮」の序を作る、○午后、「伊勢神宮」の序を広池千九郎に送る、○「東亜の光」(四の二)を小松原文相及び広池千九郎に送る、○淮南子精神訓を読む、○散歩の途次吉田宅に寄る、○日本医学校生徒二人来訪す、○夜、商子及び文中子を読む、○此日、宣光快癒す、

十日、午前、学習院に赴く、○堀内尚同、萩原雲来、曾田文甫より来状、○不在中高島円来訪す、○午后、桑木或雄より来状、○書状を高島円に送る、○夜、浦谷熊吉来訪す、○片山国嘉、東亜協会賛助員となり、渡辺良、特別会員となる、○「希望の青年」を読む、

十一日、午前、小谷重、高島円及び日之出生命保険会社より来状、○山鹿旗之進来訪す、○宮中の紀元節宴会に赴く、牧野伸顕、田中芳男、木場貞長、水野鍊太郎、鍋島直大と会見す、○午后、古城貞吉来訪す、○夜、中央会堂に赴き、一場の演説をなす、江原素六、風祭甚三郎等と会見す、○小杉熙より来状、○不在中三刀谷扶綱来訪す、○此日、憲法発布滿二十年に当るを以て満都祝賀会の催し多し、○勝水淳行、東亜協会特別会員となる、○十二日、午前、広池千九郎より来状、○書状を堀内尚同、石原即聞、野尻精一に送る、○湊を山鹿旗之進及び日之出生命保険会社に遣

はす、○午后、教科書会に文部省に赴く、尋いで帝国学士院に赴く、○夜、小松原文相及び長沢周庵より来状、○不在中村上龍英及び瀧村斐男来訪す、

十三日、午前、一〇、一五上野出發、○午后一、三〇頃宇都宮市着、堀内尚同、新田芳、岡島誘、小石川良八郎来迎ふ、直に白木屋支店に赴き、休憩後劇場に於て演説をなす、○船田兵吾(私立下野中学校長)権藤伝次(陸軍歩兵中佐)と会見す、○四、〇〇過ぎに宇都宮市出發、○夜、一〇、〇〇頃帰宅、○文部省図書課及び曾田文甫より来状、○此日、「農業修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○深作安文来訪す、

十四日、午前、井上成美、浦谷熊吉、手塚光貴、武内紫明、衣笠醇、木佐金一、田中義能、曾田文甫、森山波藏、宮崎虎之助、若月紫蘭来訪す、○近藤歌太郎外二名来訪す、有故不遇、○新公論社及び赤間富次郎より来状、○文部省より小学修身書類を送来る、○午后、遠藤夏子来訪す、○日本医学校に赴き、「学生修養法」を演説す、○不在中藤田季莊来訪す、○宮崎道三郎より「法学協会雑誌」を送来る、○安田勝藏より速記を送来る、○夜、勉強、十五日、午前、講義に大学に赴く、○濱尾総長を総長室に訪ふ、○不在中日本医学校より御礼の為に来る、○午后、法貴慶次郎来訪す、○書状を赤間富次郎及び野尻精一に送る、○校正を日清印刷会社に送る、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、書状を小松原文相に送る、○磯部武者五郎及び有樂社より来状、○堀田相爾来訪す、○十六日、午前、森良三郎来談す、○金子三四郎より来状、○Wundt、

Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、浦谷熊吉、服部宇之吉来訪す、○渡部董之介、石原即聞及び文科大学並に教科書会より来状、○野尻精一及び東海林辰三郎、東亜協会々員となる、○引続きWundtを読む、○夜、国語調査会より来状、○固本策を読む、○書状を浦谷熊吉に送る、

十七日、午前、学習院に赴く、○普公頌徳会より来状、○午后、大学の教授会に赴く、○哲学字彙の会を催ふす、○夜、服部宇之吉の歓迎会に山上御殿に莅む、○活版所より校正来る、

十八日、午前、伊東尾四郎及び金港堂より来状、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○大日本統藏経式套を受取る、○広池千九郎、東亜協会々員となる、○森良三郎、浦谷熊吉来談す、○府税家屋税六拾八錢、府税地租割五錢五厘、合計七拾三錢五厘を小石川支金庫に納む、○稲垣家より稲垣滿次郎逝去の通知書来る、○午后、引続きWundtを読む、○講義に大学に赴く、○夜、小松原文相の招待に文部大臣官邸に赴く、○校正来る、○不在中外出山高一来訪す、○此日、子爵橋本綱常逝去、

十九日、午前、須藤求馬来訪す、○「東亜の光」(四の二)を菊池広に送る、○Miss Gertrude Levy 日本学会々員となる、○齋藤木より来状、○校正来る、○校正を日清印刷会社に送る、○益之進、幼稚園の抽籤に当る、○午后、国語調査会及び教科書会に文部省に赴く、○「農業修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、南葵文庫より書状及び速記を送来る、○Tolstoy, What is Art? を読む、

二十日、午前、「女子修身」五千部の奥附を金港堂に付与す、○常盤大定来訪す、○勉強、○午后、音楽学校に赴く、○不在中浦谷熊吉来訪す、○帝国学士院より来状、○東亜協会の速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、

廿一日、午前、秋山悟庵、近藤歌太郎、松原至文、勝水淳行、中島徳藏、補永茂助、浦谷熊吉、大島正徳、坂本謹吾、鷺尾順敬、吉田豊吉来訪す、○齋藤木より履歴書を送来る、○午后、湊を稲垣滿次郎の葬式に会せしむ、○井上成美及び鷺尾順敬より来状、○淮南子を読む、○書状を浦谷熊吉に送る、○夜、勉強、○淮南子を読む、

廿二日、午前、講義に大学に赴く、○長江藤次郎と大学に会見す、○稲垣栄子より来状、○午后、長江藤次郎、物應虎之助、赤津正親、吉田雪子来訪す、○縫子、雪子と外出、三越に赴く、○校正をなす、○辞書編纂用の小簞子を同文館に付与す、○堀田相爾、赤間富次郎、蓉峯会及び九州日々新聞社より来状、○夜、校正をなす、○校正を日清印刷会社に送る、○「希望の青年」を読む、

廿三日、午前、「筑豊人物志料」の序を作る、○湊を大田黒及び浦谷宅に遣はす、○書状を伊東尾四郎に送る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、中島石松、石川正作、三樹一平来訪す、有<sub>レ</sub>故不<sub>レ</sub>遇、○浦谷熊吉、森良三郎、堀田相爾、葉山万次郎来訪す、○吉田豊吉、倉橋惣三、東亜協会々員となる、○夜、「女子修身」七千部の奥附を金港堂に付与す、○校正を日清印刷会社に送る、○武田篤郎より来状、

廿四日、午前、学習院に赴く、○服部博士歓迎会より来状、○日清印刷会社より校正を送来る、○午后、文科大学の教授会に赴く、○小石川区役所より来状、○「中学修身」百枚の奥附を文学社に付与す、○夜、「女子修身」百七拾四枚の奥附を金港堂に付与す、○晴光館より「今上詔勅集」を送来る、

廿五日、午前、西ヶ谷可吉より来状、○Du Bois-Reymond, Ueber die Grenzen des Naturerkennens を読む、○午后、校正来る、○仏教図書出版会社より「新時代の仏教」二部を送来る、○午后、八太徳三郎来訪す、○講義に大学に赴く、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○弘道館より筌蹄録を送来る、

廿六日、午前、外山高一、市来正吉、清水谷善照来訪す、○校正を日清印刷会社に送る、○国定修身教科書を読む、○午后、「中学修身」貳千五百部の奥附を金港堂に付与す、○秋山悟庵、古川黄一、浦谷熊吉、深作安文来訪す、○校正をなす、○夜、校正を日清印刷会社に送る、○書状を齋藤儀八に送る、○Tolstoy, What is Art? を読む、

廿七日、午前、水島慎次郎及び暁星学校より来状、○「使徒行伝」を読む、○勉強、○午后、音楽学校に赴く、○不在中史料編纂掛の使者来る、○「使徒行伝」を読む、○夜、安田旭軒来訪す、○夜、「使徒行伝」及び淮南子を読む、

廿八日、午前、遠藤隆吉、大田黒作次郎、三島復、谷理蔵、小杉醇、岡田善次郎来訪す、○文科大学より来状、○午后、松浦伯爵家に赴く、素行の「孫子諺解」三冊を借りて帰る、○浦谷熊吉来訪す、

○夜、安田旭軒をして速記せしむ、○淮南子を読む、

### 三月

一日、午前、書状を西ヶ谷可吉に送る、○淮南子及び文中子を読む、○「中学修身」五千五百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、八太徳三郎、井上成美、森良三郎、浦谷ふみ、野村常太郎、黒澤良臣来訪す、○幽室文稿を検す、○夜、「中学修身」四百部の奥附を文学社に付与す、○「伊勢神宮」及び雑誌類を読む、

二日、午前、帝国教育会より「戊申詔書述義」三部を送来る、○「山鹿素行日記」を史料編纂掛の使者に付与す、○「勅語教本」五百部の奥附を晩成所に付与す、○浦谷熊吉、吉田雪子来訪す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、「中学修身」二千五百部及び「師範修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○富田政喜より「おこし」壺缶を送来る、○松平頼壽より来状、○引続き Paulsen を読む、○夜、引続き Paulsen を読む、○「国基」を読む、○前田利為、八木光貫より来状、

三日、午前、学習院に赴く、○不在中岡村千秋来訪す、○八太徳三郎、枝元長夫より来状、○午后、山口志げ来る、○井上成美夫婦結婚の披露に上野精養軒に赴く、○夜、文科大学より加藤博士の書状を送来る、○野田義夫より絵端書来る、○此日、富山房より使者来る、

四日、午前、中井きぬ子より来状、○山口志げ去る、○岡村千秋東敬治来訪す、○史料編纂掛の使者、三上參次の書状を携来る、乃ち之に「中興鑑言打聞」を付与す、○文求堂より目録来る、○

Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、引き続き Paulsen を読む、○「中学修身」二千五百部の奥附を金港堂に付与す、○不在中岩田僊太郎来訪す、○浦谷熊吉来訪す、○活版所より校正来る、○夜、齋藤儀八より来状、○淮南子を読む、○ First International Moral Educational Congress より書類来る、○校正を活版所に送る、

五日、午前、齋藤木及び今泉丈助より来状、○侯爵前田利為より「加賀松雲公」三冊を送来る、○淮南子繆称訓を読む、○午后、国語調査会に文部省に赴き、尋いで興学会に大学に赴く、○文中子を読む、○夜、「中学修身」四千部の奥附を金港堂に付与す、○西ヶ谷可吉、前田利為、建部遯吾、谷理蔵より来状、○文中子を読む、○六日、午前、文科大学、伯爵松浦厚及び帝国学士院より来状、○安田旭軒、吉田雪子来訪す、○速記の校正をなす、○「東亜の光」(四の三)成る、富山房より拾部を送来る、○湊をして「軍人武士道論」を買求め来らしむ、○午后、「日本女子の将来」を東海林辰三郎に付与す、○浦谷熊吉、岩田僊太郎来訪す、○谷理蔵より小魚沓包を送来る、○三島復、秋山悟庵、齋藤木より来状、○論文目録を三島復に送る、○宣光、正勝を携へて博品館に赴く、○夜、淮南子を読む、

七日、午前、大田黒作次郎、秋山悟庵、補永茂助、得能文、堀内尚同、齋藤木、齋藤栄、藤井健治郎、中村久四郎、武内紫明、唐川徹、堀江秀雄来訪す、○堀江秀雄、東亜協会々員となる、○午后、岩田僊太郎より来状、○淮南子を読む、○安田旭軒、森良三郎来

訪す、○広池千九郎より緋沓反と書状及び「伊勢神宮」を送来る、○「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、勉強、

八日、午前、伊東尾四郎より来状、○講義に大学に赴く、○午后、教科書会より「尋常小学読本」二冊を送来る、○浦谷熊吉来訪す、○金港堂の速記を訂正す、○夜、堀田相爾来訪す、

九日、午前、伯爵松浦厚及び小石川郵便局より来状、○安田旭軒来訪す、○金港堂の速記を訂正す、○午后、「国民道德に就いて」を曾根松太郎に送る、○「東亜の光」(四の三)を小松原英太郎及び下田歌子に送る、○澤柳政太郎父の訃報至る、○常盤大定来訪す、○川上生八より来状、○夜、「東亜の光」(四の三)を服部宇之吉に送る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、

十日、午前、学習院に赴く、○女学部割烹室に食事す、○不在中相馬由也(読売新聞記者)来訪す、○午后、福井晋太郎来訪す、○Paulsen's Einleitung in die Philosophie を読む、○第一号家屋の借家人蓮見長吉移住す、○夜、Höfting, Psychologie in Umrissen を読む、○益之進、麻疹に罹る、○此日、本月四日誕生の恒久王殿下の王男子を恆徳と命せらる、

十一日、午前、Höfting, Psychologie in Umrissen を読む、○井原豊作来訪す、○文部省より「小学修身書」二冊を送来る、○大阪朝日新聞社より「国の光」を送来る、○村末より鯨肉を送来る、○午后、Carpenter's Principles of Mental Physiology を読む、○講義に大学に赴く、○文部省より書類を送来る、○浦谷ふみ来る、○服部宇之吉、東亜協会々員となる、○須藤新吉(浦和中学

校教諭) 大学に来訪す、○湊をして澤柳政太郎父信任の葬式に谷中に赴かしむ、○夜、雑誌類を読む、

十二日、午前、枝元長夫来訪す、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○有楽座大音楽会より来状、○午后、浦谷熊吉来談す、○朝永三十郎、東亜協会々員となる、○医士渡辺真と会見す、○国語調査会に文部省に赴く、○夜、帝国学士院に赴く、○「中学修身」式千九百部の奥附を文学社に付与す、

十三日、午前、吉田雪子来談す、○商子及び文中子を読む、○「東亜の光」(四の三)を釈宗演に送る、○午后、文科大学及び文部省より来状、○「中学修身」四千部の奥附を金港堂に付与す、○須藤求馬来訪す、○淮南子、管子、商子を読む、○夜、淮南子を読む、○勉強、○佐々木信綱より来状、○十一時四十分頃地震、十四日、午前、佐々木信綱より「国民歌集」を送来る、○「哲学雑誌」二冊をDeningに送る、○松村正一より葉書来る、○渡辺真来診す、○益之進軽快、○午后、枝元長夫より使者を遣はし、書状及び筆記を送来る、○原平吉、森良三郎来訪す、○電報を小幡志げに送る、○岩崎球子より来状、○研究、○夜、小幡志げの母来る、○研究、

十五日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、藤澤周次来訪す、○国書刊行会より「続々群書類従」及び「続燕石十種」各々一冊を送来る、○私立女子音楽学校より招待状来る、○夜、新聞雑誌類を読む、

十六日、午前、境野哲来訪す、○文士劇協会より来状、○午后、湊

を東洋社に遣はし、「東洋女訓叢書」を購求せしむ、○Carpenter's Principles of Mental Physiology を読む、○小石川区役所より来状、○文科大学、国語調査会及び高千穂学校より書来る、○勝木奇熊より「千登勢の友」を送来る、○夜、Carpenter's Principles of Mental Physiology を読む、○雑誌類を読む、

十七日、午前、教科書会より来状、○学習院女学部に赴く、○「朱子哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○午后、文科大学の教授会に赴く、○夜、Carpenter's Principles of Mental Physiology を読む、

十八日、午前、村上專精来訪す、○Hoffding, Psychologie in Umrissen を読む、○山崎末吉及び水産講習所より来状、○文明協会より「社会の経済的基礎」を送来る、○陽明学会より書来る、○午后、講義に大学に赴く、○木山熊次郎、浦谷熊吉来訪す、○爵位寮及び共立女子職業学校より来状、○夜、報徳会より書来る、○伝習録を読む、○教科書会より書類来る、○「中学修身」一千五百拾部の奥附を文学社に付与す、

十九日、午前、湊を浦谷及び吉田宅に遣はす、○浦谷熊吉来訪す、○伝習録を読む、○堀江秀雄より来状、○曾田文甫より「孝経」を送来る、○今泉丈助より葉書来る、○大日本統藏経二套を送来る、○午后、中目覚来訪す、○伝習録を読む、○帝国学士院より書類来る、○運動に出づ、○夜、伝習録を読む、○平山正より葉書来る、○葉書を平山正に送る、

二十日、午前、小谷重、新仏教徒同志会及び黒田清綱翁八十賀会事

務所より来状、○宮内省に赴く、正四位に叙せらる、○伝習録を読む、○古事類苑(政) 壹冊来る、○午后、「中学修身」二千部、「女子修身」(上級用) 一千部の奥附を金港堂に付与す、○伝習録を読む、○姉崎正治、吉田雪子来る、○縫子、雪子と井上成美宅に赴く、○速記を訂正す、○浦谷熊吉、上野陽一より葉書来る、○夜、島本愛之助より来状、○速記を訂正す、

廿一日、午前、田中義能、龍谿觀興、浦谷熊吉来訪す、○秋元興朝、三輪田真佐子等より来状、○午后、陽明学会に錦輝館に赴き、「陽明学」に就いて所感を述べ」を演述す、○大隈重信、渋沢栄一、三宅雄次郎、新渡戸稲造、里見常次郎、松尾清次郎、相羽忠雄、堀口貞利等と会见す、○不在中建部遯吾、岩田僊太郎、吉田熊次、来訪す、○水島慎次郎、野尻精一より来状、○縫子、児輩を拉して浅草に赴く、○清子、吉田宅に赴く、○夜、休養、

廿二日、午前、講義に大学に赴く、○船田勝吉より来状、○午后、東敬治より端書来る、○平山正、岡崎遠光、葉山万次郎来訪す、○「商業修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○岡崎遠光、東亜協会々員となる、○吉田雪子来る、○夜、教科書会より書状及び書類来る、○速記を訂正す、○此日、清子及び高子微恙に罹る、渡辺真来診す、

廿三日、午前、帝国学士院、教科書会及び添田壽一より来状、○東敬治、浦谷熊吉来訪す、○速記を訂正す、○石橋臥波より「鬼」、里見常次郎より「陽明と禪」及び「禅学要義」を送来る、○午后、速記を訂正す、○芝中学及び栃原甚六より来状、○夜、速記を訂

正す、○端書を木山熊次郎に送る、

廿四日、午前、釈宗演、新田芳、東亜協会々員となる、○湊を大学に遣はす、○浦谷熊吉来訪す、○午后、文科大学の教授会に赴く、○「中学修身」一千五百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、女大学、小学及び礼記の内則を読む、○此日、高等学校、帝国大学及び府立師範学校より案内状来る、○所得税式拾四円九拾參錢、所得税附加式円拾五錢、所得税割壹円七錢を区役所に納む、

廿五日、午前、湊を文科大学に遣はす、○教科書会より稿本を送来る、○学習院女学部に赴く、○午后、女学部に会食し了はりて大学に赴く、○「中学修身」二千四百部の奥附を文学社に付与す、○「中学修身」二千部及び「農業修身」四百部の奥附を金港堂に付与す、○大村桂巖より来状、○内則を読む、○夜、「中学修身」一千三百部の奥附を文学社に付与す、○「女大学評論」を読む、○三刀谷扶綱来訪す、

廿六日、午前、八木沼源八より来状、○浦和に向つて出発す、○午后、一、二、五〇上野発、一、三五浦和着、「我日本の民族性に就いて」演述す、平山正及び其他文科大学出身諸学士と会见す、○六時頃帰宅、○浦谷熊吉来訪す、○不在中岡田摘翠(直法) 来訪す、○帝国学士院及び京華中学より来状、○夜、成田衡夫より来状、○「和俗童子訓」を読む、

廿七日、午前、教科書会及び今泉丈助より来状、○「和俗童子訓」を読む、○平川泉吉来訪す、○東亜協会研究会に大学山上御殿に赴く、途上深作安文に逢ふ、○午后、研究会を開く、来会者、

三十余名、○夜、伝習録を読む、

廿八日、午前、乃木希典来訪す、○東洋女学校の卒業式に莅み、一

場の演説をなす、○不在中栗原元吉、小林照朗、浦谷熊吉来訪す、

○午後、丁酉倫理会記念大会に帝國教育会に赴き、「孝道觀念の  
變遷に就いて」演説す、○不在中吉田熊次来訪す、○「古学哲学」

一百枚の奥附を富山房に付与す、○夜、小学を読む、

廿九日、午前、栗原元吉、村上專精、須藤求馬来訪す、○柳谷謙太

郎より「聖教要録」二部を送来る、○伝習録を読む、○午后、教  
授会に赴く、○教科書会より来状、○不在中堀田相爾来訪す、○

「商業修身」二百部、「新編倫理」一百部、及び「中学修身」二千  
部の奥附を金港堂に付与す、○夜、伝習録を読む、

三十日、午前、浦谷熊吉、森良三郎、栗原元吉来訪す、○栗原元吉  
をして談話を筆記せしむ、○島地大等、若月保治、東亜協会々員

となる、○帝國教育会より来状、○午后、帝國学士院の委員会に  
大学に赴く、○深作安文来訪す、○「中学修身」二千部、「女子修身」

六百五拾部の奥附を金港堂に付与す、○夜、大田黒作次郎来訪す、  
○学習院女学部より来状、○栗原元吉より筆記を送来る、○書状

を帝國教育会に送る、

卅一日、午前、栗原元吉の筆記を訂正す、○田中義能より書状と「科  
学的教育学」を送来る、○湊を三井銀行に遣はす、○伝習録を読

む、○午后、清子を拉して大学に赴く、○国語調査会より辞令書  
来る、○夜、文中子を読む、○此月、清子高等女学校五年に、宣

光中学二年に、春枝尋常六年に、正勝尋常三年に進む、○益之進

始めて幼稚園に入る、

#### 四月

一日、午前、浦谷熊吉、阿部瀧次郎、東海林辰三郎来訪す、○湊を

東海銀行に遣はす、○伝習録及び文中子を読む、○午后、佐々木  
信綱より来状、○伝習録を読む、○原勝郎来訪す、○山口志げ告

別の為に来る、○夜、「中学修身」一千參百部の奥附を文学社に  
付与す、○書状を平山信に送る、○礼記を読む、○此日、増上寺

焼失す、○「日本に於ける宗教の統一」六合雜誌に出づ、  
二日、午前、「新聞雜誌と風教」日々新聞に出で、「女子の容貌と徳

操とを論ず」婦人画報に出づ、○佐々木信綱より「日本歌選」(上  
古の部)を送来る、○豊原清作より来状、○小学読本を檢閲す、

○午后、教科書会に赴く、○報徳会より来状、○幸田成友より絵  
葉書を送来る、○夜、堀田相爾、吉田雪子来談す、

三日、午前、報徳会より来状、○興讓館に赴き、一場の演説をなす、  
上杉憲章、小林源藏、下條正雄、高橋秀松、等と会見す、○午后、

佐々木養三郎、浦谷熊吉来訪す、○夜、下井小太郎より来状、○  
二宮先生語録を読む、

四日、午前、八、○○上野発の急行にて出発、○午后、二、三〇頃、

袖師村着、寺院本堂に「富と徳と壽」に就いて演説す、西ヶ谷可吉、  
阿部維巖、松田湛堂、中上喜三郎、土谷松太郎、牧田鉞太郎、片

平九郎左衛門、小山綱太郎(庵原郡長) 山本森太郎(郡書記) 桑  
原物作等と会見す、○夜、七、五三江尻発、九、三三沼津着、直に

電車にて三島に赴き、梶屋に投ず、中上喜三郎隨行し来る、○此

日、電報を留守宅に送る、

五日、午前、三島神社及び小松宮別邸を觀る、○午后、戦捷記念館に於て「戊申詔書と報徳教」に就いて演説す、盛会なり、尾崎敏樹（田方郡長）山田猪太郎（遠江国報徳社副社長）小島源三郎（事務官）鈴木千代吉、糸賀国次郎（女学校長）渡辺壽太郎、野口達之助、朝日郷右衛門、河合龍節（町長）河邊宰兵衛等と会見す、○五、四九沼津発、九、〇〇上野着、一〇、〇〇頃帰宅、○不在中辻本卯藏、河原井喜久雄、阿部瀧次郎、平山正、手塚光貴、丹羽瀧男、佐瀬文哉來訪す、○成瀬仁藏、村田勤及び竹柏会より來狀、○「農業修身」二百部の奥附を金港堂に、「中学修身」五百部の奥附を文学社に付与す、○山田喜之助より「標註論語」村田勤より「宗教改革史」樋口秀雄より「時代と文芸」を送來る、○日報社より新築記念品を送來る、

六日、午前、辻本卯藏來訪す、○湊を東海銀行に遣はす、○午后、土井林吉、西田幾太郎、河原井喜久雄來訪す、○齋藤儀八より小魚壺包を送來る、○西ヶ谷可吉より礼狀來る、○教科書会より書類來る、○「武士道叢書」上卷五百部、下卷五百部合計一千部の奥附を博文館に付与す、○夜、文中子及び二宮先生語録を読む、○宮内省式部職及び文科大学学友会より來狀、

七日、午前、文中子を読む、○「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○湊を文部省及び三井銀行に遣はす、○浦谷熊吉來訪す、○姉崎宅より筍五箇を送來る、○電話使用料拾六円五十錢を郵便局に納む、○原秀四郎より「近世地理教科書」を送來る、○

午后、「勅語教本」五百部の奥附を晩成所に付与す、○書狀を齋藤儀八、前田利為に、葉書を村田勤、山田喜之助、原秀四郎に送る、○帝国学士院及び教科書会より來狀、○縫子、千賀さだ子を訪ふ、○文中子を読む、○夜、哲学辭書の内容を訂正す、

八日、午前、文中子を読む、○菊池謙二郎、石原即聞、得能文より來狀、○哲学辭書の内容を訂正す、○午后、哲学辭書の内容を同文館に付与す、○堀田相爾來訪す、○文中子及び伝習録を読む、○葉書を柳谷謙太郎、得能文等に送る、○宣光及び正勝を拉して上野に遊び、三橋亭に於て食事して帰る、○上野に於て体量を計る、一五・五、宣光は一、〇、正勝は六、三、○夜、「中学修身」一千枚の奥附を金港堂に付与す、○隈本有尚より「性相」第七号を送來る、○伝習録を読む、

九日、午前、教科書会より辞令書來る、○内山信太郎より來狀、○島本愛之介、浦谷熊吉、水島耕一郎、森良三郎來訪す、○文中子を読む、○午后、大田黒作次郎、姉崎正治母來訪す、○「東亜の光」を読む、○西田幾太郎歓迎会に学士会事務所に赴く、○夜、教科書会、小谷重、広池千九郎、田方郡報徳会より來狀、○不在中藤田季莊來訪す、○吉田夫婦來訪す、○此日、五円の為換を中洲に送る、

十日、午前、Rev. C. C. I. Bates 及び古川勝隆、渡辺為藏來訪す、○米澤有為会より速記を送來る、○午后、岩田僊太郎、久内大賢、河原井喜久雄、森良三郎來訪す、○哲学辭書の内容を訂正す、○縫子、兒女を拉して植物園に遊ぶ、○丸善より Dewey and

Turt's Ethics を送來る、○夜、書状を穂積陳重及び元良勇次郎に送る、○藤田季莊來訪す、○河瀬秀治より來狀、

十一日、午前、近藤歌太郎、松浦一、岩橋遵成、石橋臥波、小澤銀十郎、浦谷熊吉來訪す、其他坂本嘉治馬、森良三郎等來訪す、面會するに違あらず、○岡本敏行、西田幾太郎<sup>ニ</sup>及び櫻井某、東亜協會々員となる、○正蒙を読む、○加藤孫平より來狀、○午后、友枝高彦來訪す、○正蒙を読む、○「中学修身」五百部「女子修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○伊洛淵源録を読む、○妻子一同興讓館の運動会を観る、○夜、哲学辭書の訂正をなす、○英国詩人 Swinburne 逝く、

十二日、午前、講義に大学に赴く、○桑原隲藏より繪葉書來る、○大学より「大日本古文書」二冊を受取る、○午后、前川文栄閣及び森良三郎等來談す、○巢鴨の大工をして増築を設計せしむ、○安田旭軒をして速記せしむ、○平田東助及び齋藤儀八より來狀、○伊澤修二より書状及び「發音矯正法」を送來る、○夜、哲学辭書の原稿を訂正す、○補永茂助來訪す、○葉書を菊池謙二郎及び大田黒作次郎に送る、○此日、「女子修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、

十三日、午前、森良三郎、原田秀泰、大田黒作次郎來訪す、○「中学修身」一千部「新編倫理」八拾三部の奥附を金港堂に付与す、○午后、栗原元吉、東亜協會々員となる、○浦谷熊吉、近藤歌三郎、野村常太郎、安田旭軒來訪す、○Paulsens Einleitung in die Philosophie を読む、○縫子、井上成美宅に赴く、○夜、平川

泉吉、大田黒作次郎來訪す、○文科大学より來狀、○此日、植木屋來る、○釈雲照南摩綱紀逝く、「頁下部に「雲照律師」、「南摩羽峰翁」の新聞記事切抜貼付」

十四日、午前、學習院に赴く、帰途中城直正に逢ふ、○不在中上野他七郎來訪す、○午后、田中義能、野村常太郎、上野他七郎來訪す、○丙午出版社より「退耕録」を送來る、○「中学修身」一千部「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○夜、引続き Paulsen を読む、○此日、植木屋來る、

十五日、午前、湊を文部省及び三井銀行に遣はす、○南摩宅より計報來る、○研究、○森良三郎來る、○午后、Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○「中学修身」三百五十二部の奥附を文学社に付与す、○教科書会より書類來る、○講義に大学に赴く、○小石川郵便局より來狀、○夜、二宮先生語録及び正蒙を読む、

十六日、午前、森良三郎、浦谷熊吉、櫻井一義、内山信太郎、勝水淳行、土肥竹次郎來訪す、○二宮先生語録を読む、○増築前金式百円を森良三郎に付与す、○午后、国語調査会及び教科書会に文部省に赴く、○西田幾太郎<sup>ニ</sup>より來狀、○吉田雪子、山口英爾來る、○夜、二宮先生語録及び嘸鳴館遺草を読む、○帝國興信所より來狀、○此日、「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、

十七日、午前、浦谷熊吉、坂本嘉治馬、森良三郎來談す、○鹿田靜七に書状を送る、○午后、深作安文來訪す、○孔子の部を勝水淳行に付す、○金子博愛より來狀、○富田順吉より菓子一包を送來

る、○教誡律儀を読む、○夜、上宮教会に赴き、一場の演説をなす、○此日、湊をして南摩綱紀の葬式に会せしむ、○植木屋来る、十八日、午前、加藤玄智、得能文、大島正徳、乃木希典、秋山悟庵、坂本健一、近藤歌太郎、小林照朗、葉山万次郎外法科大学生一名来訪す、○縫子、清子、宣光三人小金井に赴く、○午后、浦谷ふみ来る、○塚原政次より来状、○二宮先生語録及び教誡律儀を読む、○若山善三郎来訪す、○西脇玉峰より「通俗論語」一卷を送る、○夜、伝習録を読む、○研究、○此日、植木屋来る、十九日、午前、講義に大学に赴く、○午后、「中学修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、二宮先生語録を読む、○安田旭軒来る、乃ち談話を筆記せしむ、○夜、日本学会に大学の学生集会所に赴く、田中館、松村、神保、宮崎、有賀の諸博士来会す、盛会なり、○報徳会より来訪す、二十日、午前、「中学修身」四百六拾三部の奥附を文学社に付与す、○波多野精一の論文 (Spinoza-Studien) を読む、○午后、千賀孝善来訪す、○引続き波多野精一の論文を読む、○帝国学士院及び弘道館等より来状、○「倫理と教育」五百部の奥附を弘道館に付与す、○運動に出づ、○夜、藤田季莊来訪す、○研究、廿一日、午前、学習院に赴く、○有賀長雄より来状、○「中学修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、文科大学の教授会に赴く、○孔子祭典会より来状、○浦谷熊吉来談す、○座間勝平より「宇宙と国家」を送来る、○笹倉新治より絵葉書と学校一覽とを送来る、○不在中須藤求馬、菓子箱を携へて来訪す、○原平吉来訪す、

○夜、畠山健来訪す、廿二日、午前、山口通公、文芸革新会及び製造者保険会社より来状、○勉強、濱尾総長より使者来る、乃ち之に外套を付与す、○午后、講義に大学に赴く、○笹川貞子来訪す、○不在中樋口秀雄来訪す、○二宮先生語録を読む、○夜、菅原教造、倉橋惣三、吉田雪子来訪す、○二宮先生語録を読む、○教科書会より来状、○此日、万国心理学会より来状、廿三日、午前、古川黄一、浦谷熊吉来訪す、○二宮先生語録を読む、○教科書会より書類来る、○田中忠興より来状、○鹿田静七より書籍三部を送来る、○帝国大学より「大日本史料」一冊を受取る、○湊を文科大学事務室に遣はす、○午后、「勅語教本」五百部の奥附を晩成所に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○大学に濱尾総長を訪ふ、○鈴木三重吉より書状、加藤弘之より葉書来る、○二宮先生語録を読む、○夜、二宮先生語録を読了す、○蘭室詩文集を読む、○金港堂より奥附壱包を送来る、○此日、大久保時三郎、絞首せらる、僅に八分にして絶息、廿四日、午前、「新編倫理」一百部の奥附を金港堂に付与す、○大日本統藏経二套を受取る、○肥田秀道来訪す、有故不遇、○書状を大島正徳に、「東亜の光」(四の四) を小松原英太郎、濱尾新及び島本愛之介に送る、○富山房より「支那大文学史」を送来る、○午后、中村久四郎来訪す、乃ち之に貝原益軒の書を付与す、濱尾総長の還暦の祝に植物園に赴く、鈴木充美、千頭清臣、杉浦重剛、内田銀藏、小松原英太郎、牧野伸顕、木場貞長等と会見す、

○岩田僊太郎より来状、○亀谷聖馨より「正想的宇宙観」を送来る、○「中学修身」一千四百六十部の奥附を金港堂に付与す、○夜、自娛集を読む、

廿五日、午前、遠藤隆吉、久保幾次郎、肥田秀道、豊田臻、花輪郡藏、杉本美之助、秋山悟庵来訪す、○女中ゆり及び■、よ去り、新に三人入代り来る、○縫子、正勝及び益之進を拉して浅草伝法院に遊ぶ、○午后、報徳会に赴き、「士風頹敗の一原因」を演説す、伊藤長次郎、鶴見左吉雄、井上友一等と会見す、○自娛集を読む、○共益商社より「オルガン」壺筒を送来る、○夜、櫻井錠二より来状、○自娛集を読む、

廿六日、午前、講義に大学に赴く、○午后、石川松溪、望月信亨、浦谷熊吉、吉田熊次来訪す、○「教界春秋」を草す、○望月信亨より「仏教大辞典」を受取る、○夜、報徳会より来状、○「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与す、○経義大意を読む、

廿七日、午前、「教界春秋」を草す、○経義大意及び自娛集を読む、○縫子、博品館に赴く、○午后、原稿を櫛引成太に付与す、○浦谷熊吉、中原司馬雄、中村久四郎外学生某来訪す、○自娛集を読む、○教科書会に文部省に赴く、○夜、島本愛之介より来状、○此日、土帝アブドル、ハミッド二世廢せられ、メヘッド、レシヤツド立つ、

廿八日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○教科書会、筑前学友会及び緒方教授二十五年祝賀会より来状、○土井林吉より「衣装哲学」を送来る、○金港堂より速記を送来

る、○大田黒作次郎来訪す、○夜、Paulsen, Einleitung in die Philosophie 及び自娛集を読む、○此日、子爵由利公正逝く、享年八十一、○増築棟上げをなす、

廿九日、午前、周宮房子内親王、北白川宮成久王と御結婚の式を行はせらる、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○輔仁会及び鎗居亀太郎より招待状来る、○午后、引続き Paulsen を読む、○講義に大学に赴く、○不在中吉田圭来訪す、○自娛集を読む、○夜、澄田福松来訪す、○自娛集を読む、○国語調査会より来状、

三十日、午前、浦谷熊吉、小池槌橘来訪す、○自娛集を読む、○午后、国語調査会及び教科書会に文部省に赴く、○夜、丁酉倫理会に赴く、○暁星学校より来状、○此日、哲学概論の追試験をなす、不在中大学より答案を送来る、

#### 五月

一日、午前、辻本卯藏、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○「教界春秋」を草す、○自娛集を読む、○午后、「女子修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○自娛集を読む、○村田五郎より絵葉書を送来る、○毎日電報社より「かすていら」壺箱を送来る、○夜、藤田季荘、三刀谷扶綱来訪す、○孔子祭典会及び風紀革新会より来状、○書状を谷慶祐に、葉書を風紀革新会に送る、

二日、午前、岩橋遵成、後藤朝太郎、森良三郎来訪す、○自娛集を読む、○「学生日々の修養法」新声に出づ、○午后、筑前学友会に錦輝館に赴く、黒田長成、寺尾兄弟、久世庸夫、梅野信吉等と

- 会見す、○宮崎虎之助来訪す、有<sup>レ</sup>故不<sup>レ</sup>遇、○夜、自娛集を読む、  
 三日、午前、講義に大学に赴き、尋いで論文審査委員選定会に出席  
 す、○三上参次を史料編纂所に訪ふ、○「東亜の光」(四の五)成る、  
 ○文明協会より「欧米人の日本観」を送来る、○不在中井上なみ  
 の来訪す、○午后、石川松溪、小池槌橋、近藤歌太郎、小谷重来  
 訪す、○星野恒より書状及び史学叢説を送来る、○須藤求馬より  
 来状、○大学より学生の論文八篇を送来る、左の如し、  
 スピノザ之本体論及解脱論 安倍能成  
 カント之物如論 小山軔絵  
 シオペンハワーの解脱論 山口重知  
 カント宗教哲学 魚住影雄  
 ハルトマンの目的論 石井信二  
 カント批評哲学の起源 宮本和吉  
 カントを中心としたる  
 空間論の研究 伊藤吉之助  
 王陽明の学を論ず 城戸季雄  
 ○夜、興讓館の速記を訂正す、○豊原清作より来状、  
 四日、午前、興讓館の速記を訂正す、○森良三郎、岡本金太郎、深  
 作安文来訪す、○午后、速記の訂正を興讓館に送る、○竹内松治、  
 「日本婦女宝鑑」を携へて来る、○浦谷熊吉来訪す、○平田平三  
 及び啓成社より来状、○弘道館より「実用倫理」を送来る、○夜、  
 学生の論文を審査す、  
 五日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○夜、  
 田中貢太郎来訪す、○不在中桑原隲蔵、益と孟子の像讀を携来る、  
 ○伯爵松浦厚の授爵披露の園遊会に赴く、阪谷芳郎、岩崎一、添  
 田壽一、徳川達孝等と会见す、○宮崎虎之助来訪す、○教科書会  
 より書類来る、○浦谷熊吉 秋山悟庵より来状、○上宮教会より  
 御礼を送来る、○夜、帝国学士院より来状、  
 六日、午前、辻新次、辻本卯蔵、元良勇次郎、土井林吉、股野琢等  
 より来状、○Buchner, Kraft und Stoff, Paulsen, Einleitung in  
 die Philosophieを読む、○午后、講義に大学に赴く、○勝田孝興、  
 山田準、尾崎行雄より来状、○夜、Kraft-Ebing, Psychopathia  
 Sexualisを読む、  
 七日、午前、自娛集を読む、○学生の卒業論文を審査す、○午  
 后、同文館より御礼を送来る、○書状及び香典料各金壹円を土井  
 林吉及び葉山万次郎に送る、○浦谷熊吉来訪す、○ゴルドン夫人  
 を赤坂に訪ふ、尾崎行雄、ポーフラワー等と会见す、○夜、桑原  
 隲蔵の歓迎会に大学集会所に赴く、○不在中日比野寛来訪す、○  
 教科書会及び式部職より来状、○Kraft-Ebing, Psychopathia  
 Sexualisを読む、  
 八日、午前、自娛集及び Kraft-Ebing, Psychopathia Sexualis を  
 読む、○吉田雪子来る、○教科書会より書類来る、○午后、濱尾  
 新、加藤玄智、外に巡查一人来訪す、○スガ子、春枝、吉田雪子  
 と共に雙葉高等女学校に築地に赴く、○学生の卒業論文を審査す、  
 ○教員検定委員会より来状、○古事類苑(器用部) 沓冊来る、○  
 夜、Kraft-Ebing を読む、

九日、午前、岩橋遵成、吉田圭、岸田繁次郎、田中貢太郎、古城貞吉、齋藤栄、水島耕一郎、浦谷熊吉、近藤歌太郎、武内紫明来訪す、○自娛集を読む、○帝国教育会より来状、○午后、岡本学来訪す、○自娛集及び張子の正蒙を読む、○井上成美宅を訪ふ、○夜、勉強、○此日、小谷重より女学校の報道を送来る、

十日、午前、講義に大学に赴く、○留岡幸助及び牧野牧師来訪す、陽明哲学五十部の奥附を富山房に付与す、○午后、内田安藏来訪す、○文科大学の使者、論文を携来る、○「女子修身」二百四十八部の奥附を金港堂に付与す、○帝国学士院より「仮名遣及仮名字体沿革史料」を送来る、○福井彦次郎及び帝国学士院より来状、○夜、藤田季莊来訪す、○校正を同文館に送る、○田中久より来状、○此日、宣光、高尾山に遠足をなす、

十一日、午前、坂本嘉治馬、樋口秀雄来訪す、○葉書を笹倉新治、秋山悟庵及び報徳会に送る、○午后、帝国教育会に赴き、戊申詔書捧読式に莅み、一場の演説をなす、平田東助、小松原英太郎、肝付兼行、木場貞長、色川国士、伊澤修二、立見四郎等と会見す、○渋谷愛夫より来状、○夜、辻新次の招燕に富士見軒に赴く、○堀田相爾来訪す、

十二日、午前、学習院に赴く、○午后、文科大学の教授会に赴く、○堀田相爾来訪す、○夜、帝国学士院に赴く、○此日、教科書会及び小石川区委員部（赤十字社）より来状、  
十三日、午前、Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、講義に大学に赴く、○日本社会学研究所より来状、○不在

中宮原龍見来訪す、○夜、同文館より校正来る、○自娛集を読む、十四日、午前、浦谷熊吉、平川泉吉来訪す、○丹羽瀧男をして速記せしむ、○自娛集を読む、○午后、国語調査会及び教科書会に文部省に赴く、○不在中烈士報讐録を史料編纂掛の使者に付与す、○文科大学より論文二篇を送来る、○宮原龍見、シヨウ經節を携へて来訪す、○同文館より校正来る、○自娛集を読む、○夜、新聞を読む、十五日、午前、東敬治、王陽明の画像を携来る、○鈴木大拙より来状、○自娛集を読む、○午后、音楽学校に赴き、倫理講話をなす、○鈴木大拙より Outlines of Mahāyāna Buddhism を送来る、○樋口勘次郎より「教育勅語の御精神」を送来る、○書状を畠山健に、葉書を鈴木大拙及び市村瓊次郎に送る、○夜、学生の卒業論文を審査す、

十六日、午前、菰田万一郎、大森万次郎、近藤歌三郎来訪す、○学生の卒業論文を審査す、○自娛集を読む、○午后、自娛集を読む、○引き続き卒業論文を審査す、○縫子、宣光及び正勝を拉して中村正修宅に赴く、○夜、自娛集を読了る、○勉強、

十七日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、石川松溪、深作安文来訪す、○宇野哲人、ピザーより絵葉書を送来る、○夜、辻新次及び南葵文庫より来状、○堀田相爾来訪す、○濱尾総長の使者、書状を携来る、

十八日、午前、府税市税特別税八拾銭、普通計量秤参円参銭、量水器使用料壱円式拾銭を区役所に納む、○大日本統藏經二套を受取る、○水島耕一郎、村上信子来訪す、○神道同志会より来状、○

午後、ライプチヒ大学創立五百年の祝文を草す、○三好愛吉より孔子会の絵葉書二枚を送来る、○書状を三好愛吉、須藤求馬、平田平三に送る、○書状と「東亜の光」(四の五)を杉浦重剛に送る、○祝文案を大学本部の使者に付与す、○夜、杉浦重剛より来状、○此日、英国小説家デューヂ、メレヂース逝く、享年五十八、十九日、午前、学習院に赴く、○午後、文科大学教授会に大学に赴く、尋いで哲学字彙の編纂会に莅む、○大掃除をなす、○教科書会より書類来る、○風紀革新会より来状、○同文館より速記を送来る、○夜、三刀谷扶綱、帝国教育会の礼状と御札とを携来る、○校正を同文館に送る、○藤井健治郎より来状、○此日、柳石藤七逝く、二十日、午前、文芸革新会より来状、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、引続<sup>つ</sup> Paulsen, Einleitung を読む、○講義に大学に赴く、○文科大学及び和田万吉より来状、○夜、貝原益軒の養生訓を読む、○同文館の速記を訂正す、○哲学会より来状、

廿一日、午前、浦谷熊吉来談す、○「勅語教本」五百部の奥附を晩成所に付与す、○マヌファクチュラーズ生命保険会社より来状、○午后、齋藤儀八、齋藤謙蔵、村上信子より来状、○吉田雪子来る、○堀田相爾来談す、○夜、文芸革新会に赴き、所感を述ぶ、○此日、太宰府旧宅式敷式歩を購入す、代価式百式拾式円、○東洋哲学試験問題を文科大学事務室に送る、○ストローヴを取除く、廿二日、午前、浦谷熊吉、森良三郎、鈴木三重吉来訪す、○書状を島本愛之介に送る、○中田尋常高等小学校に返事を送る、○鈴木

三重吉と共に午餐をなす、○午后、同文館の使者、書状を携へて来る、乃ち之に原稿を托す、○黒住宗武、黒住教々書(第一輯)を携来る、○書状を塚原政次に送る、○学生の論文を閲す、○夜、吉田夫妻来談す、○養生訓、淮南子、正蒙を読む、○学生の論文を閲す、○平田平三、菰田万一郎、精華学校及び四脚賀会事務所より来状、○此日、津野菊子逝く、

廿三日、午前、田中義能、山岸光宣、花輪郡蔵、澤畑美畝来訪す、○金港堂、東京音楽学校及び鶴山保勝会より来状、○花輪郡蔵、東亜協会々員となる、○村上信子の使者、レデー、タイムスを携来る、○岡部為吉、米国 Thaca より絵葉書を送来る、○文明協会より「日米交渉五十年史」を送来る、○平田平三より「兵法雄鑑抄」を送来る、○午后、侯爵佐々木高行の招待会に富士見軒に赴く、杉浦重剛、福本誠、井上頼国、松平正直、白仁武等と会見す、○夜、哲学会に大学山上御殿に赴く、○不在中田中義能来訪す、○藍公武より来状、

廿四日、午前、東洋哲学の試験を行ふ、○不在中浦谷熊吉来る、○縫子、津野宅に弔の為に赴く、○午后、石川松溪来訪す、乃ち之に談話を筆記せしむ、○書状を建部遯吾に送る、○音楽学校より原稿を送来る、○浦谷熊吉来談す、○湊をして津野菊子の葬式に会せしむ、○教界春秋を草す、○同文館より原稿来る、○丙午出版社より「和漢名士參禪集」及び「宗教と倫理」を送来る、○夜、村上信子の筆記を訂正す、○原稿を浦谷熊吉に送る、○帝国学士院及び津野慶太郎より来状、

廿五日、午前、坂本嘉治馬、井上波野来訪す、○筆記の訂正を村上信子に送る、○原稿を坂本嘉治馬に送る、○島本愛之介より来状、○野本恭八郎より「我本領」二部を送来る、○午后、校正及び原稿を同文館に送る、○文科大学より書類来る、○堀田相爾来談す、○縫子、董会に元良宅に赴く、○学生の卒業論文を審査す、○「戊申詔書に就て」山梨日々新聞に出づ、○夜、勉強、

廿六日、午前、学習院に赴く、○午后、文科大学の教授会に赴く、○不在中坂上忠之介より来状、○夜、辻本卯藏より来状、

廿七日、午前、Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○文学社手代鈴木某来る、○縫子、吉田宅に赴く、○午后、講義に大学に赴く、○石山福治来訪す、有故不遇、○浦谷熊吉、岩田僊太郎来訪す、○文科大学より来状、○不在中金港堂より印税を送来る、○夜、山崎直三、巴里より絵葉書壱包を送来る、○塚原政次より来状、○養生訓及び張子の正蒙を読む、

廿八日、午前、「中学修身」(見本)三百部の奥附を文学社に付与す、○湊を文部省に遣はす、○張子の正蒙及び益軒の養生訓を読む、○乃木大将より「中朝事実」跋文附録を送来る、○神田橋稅務署より申告書来る、○浦谷熊吉来談す、○午后、書状を孤田万一郎、佐藤義長、及び文科大学に送る、○葉書を土井林吉、高島大円、澤畑美畝に送る、○川村北溟、吉田雪子来談す、○湊を東海銀行に遣はす、○三好晋六郎及び早川光藏より来状、○夜、大田黒作次郎来訪す、○書状を早川光藏に送る、○此日、明治四十二年度の所得を計算するに、左の如し、

年報・・・・・・・・一、六〇〇、〇〇〇  
 講座給・・・・・・・・九〇〇、〇〇〇  
 地代・・・・・・・・一、一、九二  
 家賃・・・・・・・・二、八九、二〇

合計 一、九〇二、一一 (稅務署に届出)

廿九日、午前、古川黄一來訪す、○講習予定目録を弘道館に送る、○午后、音楽学校に赴く、○浦谷熊吉、堀田相爾来訪す、○田邊元、若山善三郎、東亜協会特別会員となる、○角田松壽より来状、○暁星学校及び久内大賢より来状、○夜、書状を乃木希典、元良勇次郎、大塚保治、円藤鎮に送る、○原稿を上野陽一に送る、

三十日、午前、波多野精一來訪す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、東亜協会第五回講演大会を法科大学第三十二番教室に開く、加藤弘之、大澤謙二、嘉納治五郎、富井政章と共に講演をなす、聴衆約五百余名、○夜、晚餐会を山上御殿に開く、○早川光藏より来状、○此日、Galen Merriam Fifer 及び George Gleason と大学に会見す、○不在中山路重永及び山路清子来訪す、

卅一日、午前、孤田万次郎より来状、○講義に大学に赴く、○午后、速記料を杉山直喜に付与す、○増築費残額を森良三郎に付与す、○角田松壽、太平洋画、真言宗青年会より来状、○夜、教科書会より書類来る、○筆記の訂正を音楽学校学友会に送る、○文科大学より来状、○此日、増築完成す、六畳壱部屋、四畳半壱部屋、經費四百六拾貳円、畳代貳拾八円参拾五錢、兩樋代拾四円五拾五

銭、合計五百〇四円九拾銭、

六月

一日、午前、浦谷熊吉、辻本卯藏来訪す、○佐藤義長より来状、○書状を島本愛之介、加藤弘之、大澤謙二、富井政章に送る、○湊を区役所及び東海銀行に遣はす、○午后、原稿を同文館に送る、○国書刊行会より伴信友全集及び出版書目等を送来る、○姉崎袖子来訪す、○夜、大学教授の送迎会に山上御殿に赴く、  
二日、午前、学習院に赴く、○ゴルドンの Clear Round を女学部より受取る、○午后、教授会に赴く、○不在中齋藤庸一郎来訪す、○吉田豊吉、野田麟太郎来訪す、○国府種徳、久内大賢、菅原教造より来状、○夜、野田麟太郎より来状、  
三日、午前、倫理学の口述試験に大学に赴く、○不在中川村北溟、東海林辰三郎来訪す、○午后、哲学の口述試験に大学に赴く、○川村北溟来訪す、○夜、森良三郎、吉田夫婦来る、○此日、法貴慶次郎、東亜協会々員となる、  
四日、午前、哲学科の口述試験を行ふ、○不在中新村出来訪す、○マヌフ、クチュールラス生命保険会社より来状、○「東亜の光」(四の六)成る、発行部数二千五百五十、○午后、縫子、姉崎宅に赴く、○唐川徹来訪す、○夜、大浦肇及び島本愛之介より来状、○興学会に赴く、○此日、益之進、幼稚園に於て負傷す、  
五日、午前、曾根松太郎より来状、○井上波野来訪す、○「東亜の光」を村上信子、齋藤謙蔵、島本愛之介に送る、○書状を佐藤義長に送る、○東洋高等女学校より案内状来る、○午后、「中学修身」

(巻三)五部を送来る、○寺尾壽在職二十五年の祝に植物園に赴く、○夜、帝国学士院より来状、○象山語録を読む、

六日、午前、早稲田大学出版部より「近代文芸之研究」を送来る、○三島復、山口重知、魚住影雄、蕭友梅、来訪す、○午后、足立郡教育会に浦和中学校に赴き、「国民道德」に就いて演述す、小島政吉、木原守三郎、竹内金次、早川光蔵、齋藤阿具、平山正等と会见す、○不在中小豆沢英男及び中島徳藏使者来る、○夜、速記を訂正す、

七日、午前、宗教学の口述試験に大学に赴く、○午后、引続き口述試験をなす、○濱尾総長を訪ふ、○不在中石川松溪来る、○夜、藤井健治郎及び岩田僊太郎と学士会事務所に会す、不在中藤田季莊来訪す、○此日、東亜協会に於ける「我、徳、育、と、精、神、主、義」読売新聞及び東京経済雑誌に出づ、

八日、午前、浦谷熊吉、吉田雪子来る、○早川光蔵より来状、○速記を訂正す、○午后、教育学の口述試験に大学に赴く、○福井嘉納来訪す、乃ち晚餐を共にす、○夜、丁酉倫理会の速記を訂正す、○同文館より校正来る、

九日、午前、学習院に赴く、○電車中法貴慶次郎に逢ふ、○午后、文科の教授会に赴く、○堀田相爾、桑田芳蔵、豊島要三郎と山上御殿に会见す、○夜、新聞を読む、

十日、午前、印度哲学の口述試験に大学に赴く、○間千代来訪す、○午后、丁酉倫理会の速記を訂正す、○夜、森林太郎及び梶尾太郎より来状、○速記を訂正了る、

十一日、午前、森林太郎の著述目録を瀬戸虎記に送る、○文部省より「第三十五年報」を送来る、○速記の訂正を中島徳藏に送る、○史料編纂掛より使者来る、○十一時十五分飯田町発、立川に赴く、○午后、東京府立第二中学校に於て「人と天」を演述す、大浦肇、越山頼治、等と会見す、○不在中「朱子哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○瀬戸虎記より来状、○夜、校正を同文館に送る、

十二日、午前、藤岡作太郎、辻本卯藏、古川黄一、板原瑛夫来訪す、○午后、藤田季莊来訪す、○松浦伯爵家に赴き、山鹿素行の書類を検閲す、尋いで帝国学士院に赴く、○不在中三刀谷扶綱来訪す、○夜、小松原英太郎、菊池謙二郎より来状、○教科書会より書類来る、

十三日、午前、澤畑美畝、川浪道三、前田洋三、吉田圭、補永茂助、齋藤庸一郎、浦谷熊吉、葉山万次郎来訪す、○午后、野田麟太郎来訪す、○葉書を千頭清臣に、書状を小杉楯邨、齋藤儀八、岩井楨三に送る、○夜、諸雑誌を検査す、○此日、宣光、正勝及び湊、国技館に赴く、○島本愛之介、東亜協会々員となる、○赤津正親より来状、

十四日、午前、心理学の口述試験に大学に赴く、○午后、四時頃帰宅、○不在中本庄精次、近藤歌三郎来訪す、○岩井楨三より来状、○隆文館より肥後文献叢書第一巻を送来る、○夜、富田とらきより来状、○雑誌類を読む、

十五日、午前、時事新報社及び渋谷愛夫より来状、○森良三郎、浦

谷熊吉来訪す、○午后、E. A. Gordonより使者を遣はし、書状及びThe Awakening of Faithを送来る、○府立第二中学校学友会より御礼を送来る、○石川松溪をして談話を速記せしむ、○隆文館より「二宮尊徳」を送来る、○夜、三上参次より久米邦武の履歴書を送来る、○書状をGordon夫人、瀬戸虎記、小松原英太郎、William Harrisに送る、○教科書会より書類来る、○此日、弘道館より講習会に関する報告ハヤを送来る、

十六日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に赴く、○弘道会より「泊翁叢書」を送来る、○夜、吉田夫妻来談す、○此日、濱尾新及び、成人会より来状、○田中光顕、宮内大臣を罷め、岩倉具定之に代る、○兵法雄鑑抄及び美言殘滴を乃木希典に貸付す、○藤岡作太郎より来状、

十七日、午前、Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○森良三郎、小牧昌業来訪す、○坪井九馬三より来状、○午后、引き続きPaulsenを読む、○講義に大学に赴く、○不在中女子大学の橋本八重子来訪す、○安田旭軒来訪す、○夜、大学の祝文原稿を訂正す、○E. A. Gordonより来状、○久内大賢より使者来る、

十八日、午前、浦谷熊吉来訪す、○大学の祝文を大学の使者に付与す、○日蝕、○午后、教科書会に文部省に赴き、尋いで小松原文相の招燕に文部大臣官舎に抵る、○夜、吉田静致に電車中に逢ふ、○金港堂より「修身書印税調書」を送来る、

十九日、午前、報徳会の速記を訂正す、○辻本卯藏来訪す、○哲学科卒業学生の招燕に大学山上御殿に赴く、○午后、引続き速記を

訂正す、○文学博士会より来状、○夜、坂本嘉治馬来訪す、○引続き速記を訂正す、○此日、雨、○宣光、咽頭加答児に罹る、○森田利房逝く、

二十日、午前、岩崎歌郎、古城貞吉、浦谷熊吉、藤本政介、堀尾太郎、武内紫明来訪す、○「士風頹敗の一大原因」を報徳会に送る、○東亜協会の速記を訂正す、○午后、安田旭軒来訪す、○引続き速記を訂正す、○吉田雪子来談す、○夜、日本学会に大学山上御殿に赴く、有賀長雄、松村任三、大宮兵馬、高桑駒吉講演をなす、盛会なり、○不在中松本愛重来訪す、○速記の訂正を浦谷熊吉に付与す、

廿一日、午前、講義に大学に赴く、○富田春山より来状、○不在中森良三郎、浦谷熊吉来訪す、○午后、石川松溪来る、乃ち談話を速記せしむ、○大和田真彦外一名来訪す、○宮内省より来状、○「禪と人生」の跋を作る、○夜、西海新報社より来状、

廿二日、午前、東洋哲学追試験問題を文科大学事務室に送る、○六盟館より「新教育の主張と生命」を送来る、○植木直一郎、高橋龍雄、東亜協会々員となる、○本庄精次、浦谷熊吉来訪す、○宮内省に赴き賜物を拝領す、○赤津正親より来状、○午后、小尾範治来訪す、○Gordon, Clear Round; Timothy Richard, The Awakening of Faith を読む、○E. A. Gordon を訪ふ、○夜、書状を森田利武、日本弘道会及び西海新報社に送る、○教科書会及び文学博士会より来状、

廿三日、湊を文科大学に遣はす、○二葉会に赴き、St. Mary 及び

野辺地某と会見す、○学習院女学部に赴く、野口幽香子と会見す、○午后、文科大学教授会に赴く、○堀田相爾及び小尾範治来訪す、○教科書会より書類来る、○文明協会より「現代文明史」を送来る、○不在中深作安文、原稿を携来る、○文学博士会より書類来る、○春枝及び益之進、風邪に罹る、○「我徳育と精神主義」中外日報に出づ、○夜、「国民生活と宗教」の序を作る、○国学院大学及び心理学通俗講話会より来状、○此日、「教員検定委員任命」の辞令書を大学より受取る、

廿四日、皇典講究所より来状、○東京音楽学校より「中等唱歌」を送来る、○書状を富田春山に送る、○「国民生活と宗教」の序を浦谷熊吉に送る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、引続き Paulsen を読む、○講義に大学に赴く、○石川松溪より書状及び原稿を送来る、○不在中姉崎増子来訪す、○夜、教界春秋を草す、○教員検定委員会より来状、○此日、富山房より印税を送来る、

廿五日、午前、育英舎より「明治文学史」を送来る、○点数會議に大学に赴く、○午后、加藤熊一郎より「修養論」を送来る、○常盤大定来訪す、○文科大学の使者来る、○同文館より校正を送来る、○すみれ会を開く、来会者凡そ九名、和田実をして器具に就いて講話をせしむ、○武教本論を読む、○夜、教界春秋を草す、廿六日、午前、文科大学の教授会に赴く、○午后、東京音楽学校に赴く、○加藤弘之、青山胤通及び暁星学校より来状、○海老名彌正、林太吉、乃木希典来訪す、○夜、教界春秋を浦谷熊吉に送る、

○吉田静致より来状、

廿七日、午前、Manufacturers Life Insuranceより来状、○本庄精次、木山熊次郎、大森万次郎、吉田豊吉、山田又吉来訪す、○午后、久内大賢より来状、○丁酉倫理会に赴く、○夜、校正を同文館に送る、

廿八日、午前、講義に大学に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○不在中岩田僊太郎、鈴木貞太郎来訪す、○浦谷熊吉来訪す、○夜、教科書会より書類来る、○弘道館員岸田繁次郎、印税を携来る、

廿九日、午前、浦谷熊吉、鈴木大拙(本名は貞)来訪す、乃ち大拙と昼食を共にす、○午后、深作安文、堀田相爾来訪す、○風見謙次郎、鈴木宗突、東亜協会々員となる、○本庄精次の意志教育論の序を作る、○金港堂より印税を送来る、○同文館より校正を送来る、○夜、吉田静致、富田貞松より来状、○校正を同文館に送る、○速記の訂正を石川松溪に送る、

三十日、午前、湊を学習院に遣はす、○学習女学部<sup>マ</sup>に赴く、○午后、大学山上御殿に赴き、尋いて哲学字彙の会に莅む、○余姚学苑を小牧昌業の使者に付与す、○不在中本庄精次来訪す、○書状を吉田熊次に送る、○藤井健治郎来訪す、○「師範修身」二百部の輿附を金港堂に付与す、○書状を吉田熊次に送る、○高木吾一来訪す、有故不遇、○本庄精次来訪す、乃ち之に序文を付与す、○速記の訂正を石川松溪に送る、○大隈重信より来状、○此日、本年度上半期の教科書検印総数を調査するに、金港堂の「中学修身」

参万八千参百六拾部、「女子修身」壹万八千貳百九拾壹部、「新編倫理」貳百八拾参部、「農業修身」一千参百部、「商業修身」四百部、「師範修身」一千四百八拾九部、総計六万〇百貳拾参部、文社の「中学修身」壹万参千七百六拾五部、金港堂の分と合計七万参千八百八拾八部、外に「勅語教本」貳千貳百部、「倫理教育」五百部、「朱子哲学」貳百部、「陽明哲学」一百部、「古学哲学」一百部、武士道叢書一千部を發行す、総合計七万七千九百八拾八部、

#### 巽軒日記

明治四十二年(西曆一九〇九) 下半年

七月

一日、午前、三井銀行に赴く、○浦谷熊吉及び上田えつ子来訪す、○吉田熊次より来状、○午后、阿部能成、岩田僊太郎、高橋正熊、大井徹翁来訪す、○湊を東海銀行に遣はす、○石川松溪の速記を訂正す、○学習院女学部より御礼を携来る、○三宅温岳外二名より空間本体説を送来る、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、速記の訂正を石川松溪に送る、○加藤弘之、孤田万一郎より来状、

二日、午前、石上弥助、小原尚美来訪す、○芝山会稿を史料編纂の使者に付与す、○教授会に赴く、○午后、内山正如より来状、○不在中大森万次郎、カステイラ壱箱を携来る、○島田翰より、「碩宋楼藏書源流攷」を送来る、○雜誌類を読む、○夜、速記を訂正す、

三日、午前、笹川種郎、日本百科大辞典第二巻を携へて来訪す、○速記の訂正を石川松溪に送る、○「東亜の光」(四の七)成る、○検定試験問題を松浦鎮次郎に送る、○小松昌業より来状、○午后、書状を大隈重信に送る、○文学博士会に文部省に赴く、当選者は吉田東伍、久米邦武、本居豊穎、関根正直、細川潤次郎、森林太郎六人、○夜、書状を W. Harris に送る、○国学院大学より招待状来る、

四日、午前、三島復、野田麟太郎、浦谷熊吉、杉浦重剛、安田旭軒、藤井巖、手塚光貴、高木吾一、補永茂助来訪す、○午后、「陽明哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○精美堂より「実用家庭百科全書」を送る、○石川松溪の速記を訂正す、○書状を高木吾一及び山田準に送る、○藤田季莊来訪す、○夜、引続き速記の訂正をなす、○姉崎袖子来訪す、○此日、縫子、上田えつ子の送別会に多賀羅亭に赴く、

五日、午前、速記の訂正をなす、○北村澤吉来訪す、○富田貞松より来状、○北村澤吉、東亜協会々員となる、○午后、小野正尊来訪す、○速記の訂正を石川松溪に送る、○哲学字彙の会に心理学研究室に赴く、○野上俊夫、後藤朝太郎、東亜協会々員となる、○不在中浦谷ふみ、「国民生活と宗教」二部を携来る、○夜、書状を石川松溪に送る、○松陰紀念会の速記を訂正す、○此日、古澤滋より「井伊掃部頭始末」を送来る、

六日、午前、帝国学士院、井伊直弼銅像建設委員及び W. Harris より来状、○森良三郎、石上弥助来談す、○山口重知、写真を携来

る、○電話使用料拾六円五拾銭を郵便局に納む、○参円九拾弍銭の為換と書状を齋藤儀八に送る、○速記を訂正す、○午后、丹羽瀧男来る、乃ち之をして速記せしむ、馬語秀三、加藤玄智来訪す、○浦谷熊吉来談す、○夜、速記を訂正す、○服部宇之助より来状、

七日、午前、吉田圭及び吉田静致より来状、○高橋正熊来訪す、○学習院女学部に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○不在中山鹿誠之助、島本愛之助、柳沼弥左衛門来訪す、○赤津正親来訪す、○佐藤義長より来状、○夜、速記を訂正す、○正勝少しく腹痛を患ふ、

八日、午前、八木光貫、本庄精次より来状、○校正を本庄精次に送る、○漆を井上頼国宅に遣はす、○柳沼弥左衛門来訪す、○磯江潤より反物二反を送来る、○午后、毎日電報社よりカステイラ壺箱を送来る、○書状と速記の訂正とを菊池謙二郎に送る、○書状を高橋正熊に送る、○「東亜の光」(四の七)を小松原英太郎及び吉田圭に、「東亜の光」(四の六及び七)をデニングに送る、○夜、速記を訂正す、

九日、午前、浦谷熊吉、大森万次郎、高橋正熊来訪す、○速記を訂正す、○亀井茲常より来状、○午后、尾上八郎、有馬祐政来訪す、○「中学修身備考」の原稿を金港堂の使者に付与す、○島本愛之助より来状、○夜、勉強、○「土風頹敗の一原因」斯民に出づ、

十日、午前、馬語秀三来訪す、○帝国大学の卒業式に赴く、卒業生総計九百十八人、○午后、柳町小学校に赴き、「教育と経済の話」をなす、○本庄精次、片岡久太郎来訪す、○教科書会より来状、

○素行会より「山鹿誌」三冊を送来る、○夜、Krafft-Ebing, Psychopathia Sexualis を読む、○此日、清水満之助より砂糖壺樽を送来る、

十一日、午前、亀井茲常、北村教嚴、飯沼松枝より来状、○有賀長雄、田村喜作、宮本和吉、小山鞆絵、上田秀雄、橋本精次、中野省吾、高橋静虎、岩橋遵成、近藤歌太郎、高木吾一、齋藤木来訪す、○文明協会より洋酒を送来る、○午后、速記を訂正す、○同文館より文房具を送来る、○吉田宅に赴く、○夜、隣家の村松より「サイダー」壺箱を送来る、○速記を訂正す、

十二日、午前、安田旭軒来る、乃ち談話を速記せしむ、○弘道館より「らすきん氏読書論」を送来る、○植田弥吉夫妻来訪す、○午后、浦谷熊吉来訪す、○高木武、東亜協会々員となる、○哲学字彙の会に赴く、○夜、帝国学士院に赴く、○此日、井上成美より肩掛及び菓子、弘道館よりサイダー壺打、村田五郎より鯉魚節を送来る、○学習院より招待状来る、

十三日、午前、教科書会に赴く、○亀井茲常、常盤大定来訪す、○富山房よりビール壺打、大倉書店よりビール壺打、三省堂鶏卵壺箱、国民中学会よりビール壺打、伊澤氏より鶏卵壺籠及び襟壺ツ、育成会より茶碗を送来る、○午后、文科大学懇親会に赴く、○夜、八時頃帰宅、○此日、井上頼国より「鏡室集」を借る、

十四日、午前、十時学習院に赴く、○午后、浦谷熊吉来談す、○帝国学士院委員会に山上御殿に赴く、○夜、伯爵亀井茲常の招燕に上野精養軒に赴く、○不在中奥田米翁、八太徳三郎、原平吉来訪

す、○此日、日高有倫堂より「千波万波」を送来る、○浅倉屋より和漢書十三種を購入す、

十五日、午前、吉田豊、山鹿誠之助、高橋正熊、浦谷熊吉、吉田雪子来訪す、○今泉丈助より来状、○速記を訂正す、○縫子、津野慶太郎宅に赴く、○午后、速記を訂正す、○素行会に華族会館に赴く、○夜、速記を訂正す、○此日、不在中八太徳三郎、堀田相爾来訪す、

十六日、午前、遠藤夏子、中村久四郎、安田旭軒来訪す、○笹川姉崎二老母来訪す、乃ち昼食を共にす、○ビール壺打を佐々木信綱に、ビール壺打を松浦一に、砂糖壺箱を真浄寺に、ビール半打を吉田熊次に送る、○午后、速記の訂正を安田旭軒に付与す、○鈴木暢幸、梅野寂然、伊東尾四郎来訪す、○鏡室集を読む、○夜、小谷重より来状、○鏡室集を読む、

十七日、午前、デゼール各々壺缶を川端、甘木及び齋藤儀八に送る、○原平吉来訪す、○佐々木信綱より砂糖大樽を送来る、○午后、武教本論を読む、○八太徳三郎来る、乃ち之をして談話を速記せしむ、○縫子、岩谷商会に赴く、○東亜協会講習会の相談の為に学士会事務所に赴く、○夜、武教本論を読了す、○平川謹一郎より来状、○大学或間を読む、

十八日、午前、乃木希典、上田秀道、橋本八重子、蕭友梅来訪す、○午后、樋口秀雄、高木吾一來訪す、○冷蔵庫を購入す、○勉強、○夜、勉強、○大学或間を読む、

十九日、大学或間を読む、○哲学字彙の会に大学に赴く、○日本統

藏經二套を受取る、○式円拾二銭を鹿田静七に送る、○縫子、成美宅に赴く、○午后、木村勉来訪す、有故不遇、○大学或間を讀む、○谷慶祐より来状、○浦谷熊吉、赤祖父順雷来訪す、○阿部維巖より書状及び桃壺箱を送来る、○中島力造、伯林より繪葉書を送来る、○速記を訂正す、○帝国学士院より使者来る、○鶏卵箱を大田黒作次郎に、ビール壺打を鳥居龍藏に送る、○夜、八大徳三郎より書状及び筆記を送来る、○筆記の訂正を政教社に送る、○東亜協会の速記を訂正す、

二十日、午前、橋本八重子来る、乃ち之をして筆記せしむ、○東亜協会の速記を訂正し了る、○午后、フェノロサの会に山上御殿に赴く、○不在中黒木安雄、乗杉嘉壽来訪す、○速記の訂正及び梅窓一朶を浦谷熊吉妻に付与す、○夜、「孔子の人格に就いて」を訂正す、○吉田雪子来る、既にして吉田熊次亦来る、○小林一郎より来状、

廿一日、午后、浦谷熊吉、大森万次郎、藤井專隨来訪す、○「孔子の人格に就いて」を訂正し了る、乃ち之を嘉納治五郎に送る、○午后、齋藤精輔、川田鍊弥、姉崎益子来訪す、○文科大学より書類を送来る、○原稿を浦谷熊吉に送る、○勉強、○夜、三輪物語を讀む、○吉田夫妻より書状と鮎とを送来る、

廿二日、午前、井芹経平、坂本嘉治馬、尾原亮三郎、井上成美来訪す、○午后、矢野太郎来訪す、○勅語衍義一千部の奥附を林平次郎に付与す、○「陽明哲学」補正の四を作る、○「孝道観念の變遷に就いて」丁酉倫理臨時増刊に出づ、○夜、吉田雪子来る、○

張子の正蒙及び二程全書を讀む、

廿三日、午前、服部宇之吉、及び弘道館より来状、○速記を訂正す、○湊を文科大学に遣はす、○阿倍能成来訪す、○午后、富田貞松より来状、○杉浦重剛より「同窓会演説集」を送来る、○速記を訂正す、○大倉書店より校正来る、○夜、齋藤儀八より来状、○二程全書を讀む、

廿四日、午前、小林一郎、浦谷熊吉来訪す、○下痢を患ふ、○速記を訂正す、○午后、下痢止む、○坂下金吾、蕭友梅、橋本進吉、野田麟太郎、山口重知、市川三喜、根岸和一郎、宮本和吉、高島大円、石坂大巖、千日亮、和田卯吉、林訥、次田訥、瀬尾武次郎、荒瀬邦助、白石勉、橘純一、河原美治、高木武、中勘助、藤田篤、黒木重也、海老名一雄、田中龍勝、喜多山茂、三矢禪英、大矢泰英、和田廉之助、塚田芳太郎、山崎麓、篠田周之、安居院敏磨、三神竹三郎、橘超妙、井手董、寺田精一、亀井茲常、古谷頼綱、有泉寛、藤田敏三、龍野昌之、東亜協会々員となる、○井上円了より来状、○股野琢より「葦杭遊記」を送来る、○夜、速記の訂正を弘道館に送る、○校正を大倉書店に送る、○同文館の原稿を訂正す、廿五日、午前、東亜協会講習会に第一高等学校に赴き、開会の辞を述べ、講習員約式百六拾名、○松山直藏、岩橋遵成、加藤玄智、八木光貫、波多野精一来訪す、○午后、哲学辞書の原稿を訂正す、○文明協会より「大英国民」を送来る、○飯沼松枝来訪す、○原稿を同文館の使者に付与す、○夜、藤田季莊、堀田相爾来訪す、○「教界春秋」を浦谷熊吉に送る、○勉強、

廿六日、午前、講習会に第一高等学校に赴く、○若木広良、村川堅固、谷山初七郎来訪す、○千葉鉞蔵より「蘇生の日」を送来る、○岩田僊太郎、ハンケチ壱打を、谷山初太郎、茶碗壱箱を贈る、○飯沼松枝より来状、○午后、校正を大倉書店に送る、○書状を阿部維巖及び服部宇之吉に送る、○二程全書を読む、

廿七日、午前、村川堅固より来状、○講習会に赴く、○野田麟太郎来訪す、○午后、書状と香典料式円とを平川謹一郎に送る、○書状を堀田相爾に送る、○大井徹翁、原平吉、本庄精次来訪す、○「陽明哲学」補正の四を富山房の使者に付与す、○墨子及び二程全書を読む、○夜、勉強、○吉田夫妻来談す、

廿八日、午前、若木広良、村上龍英来訪す、有<sub>レ</sub>故不<sub>レ</sub>遇、○講習会に赴く、○午后、若木広良、大井徹翁、浦谷熊吉来訪す、○二程全書を読む、○葛岡敬雄より絵葉書を送来る、○夜、堀田相爾来訪す、○勉強、

廿九日、午前、講習会に赴く、○三島復より来状、○陸象山文集を読む、○吉村寅太郎、大森国吉来訪す、○午后、陸象山文集を読む、○Ludwig Riess の歓迎会に上野精養軒に赴く、○夜、吉田静致より絵葉書を、小幡志げより写真を送来る、

三十日、午前、講習会に赴く、○高橋正熊、木村隆法来訪す、○松崎覚本より書状、中村久吉より書類を送来る、○湊を東海銀行に遣はす、○午后、長谷川福平来訪す、○益軒の和学一步を読む、○森林太郎来訪す、○井上健児より「玉あられ」壱伍を送来る、○夜、養生訓及び講孟箴記を読む、

卅一日、午前、木村隆法より来状、○講習会に赴く、○豊田八十代来談す、○石橋智信及び木村隆法、東亜協会々員となる、○午后、山崎直三及び International Union of Ethical Societies より来状、○岡野義三郎来訪す、○森林太郎の Vita Sexualis を読む、○夜、弘道館員岸田某来訪す、○「徳育と精神教育」岩手毎日新聞に出づ、○浦谷熊吉、堀田相爾、高橋正熊来訪す、○講孟箴記を読む、

#### 八月

一日、午前、講習会に赴く、○森良三郎来談す、○地租四拾九銭を巢鴨村役場に納む、○午后、吉村寅太郎来訪す、○夜、桑田芳蔵来訪す、○勉強、○此日不在中補永茂助、田貝定太郎、手塚光貴来訪す、○小池橘太郎より来状、

二日、午前、講習会に赴く、○書状を堀田相爾に送る、○草野芳槌、東亜協会々員となる、○午后、手塚光貴、木村隆法来訪す、○紀平洲の野芹を読む、○講孟箴記を読む、○多久聖廟祭典事務所より記念絵葉書を送来る、○夜、「日本の社会に於ける実業家の位置」日本及日本人に出づ、○講孟箴記を読む、○「人間に就ての所感」帝国文学に出づ、

三日、午前、講習会に赴く、○途上島本愛之介と会見す、○講孟箴記を読む、○午后、講孟箴記及び国意考を読む、○須藤求馬より絵葉書を送来る、○大井徹翁来訪す、○井上ひで子より来状、○家庭雑誌社より菓物壱籠を送来る、○夜、国意考を読む、○吉田雪子来談す、○「東亜の光」(四の八)成る、

四日、午前、松村正一より来状、○講習会に赴く、○木村隆法来訪

す、○午后、書状を堀田相爾に送る、○原平吉、江藤邦松、山岸光宣来訪す、○同文館より校正来る、○勉強、○夜、弘道館より校正来る、

五日、午前、講習会に赴く、○帰途博品館に赴く、○不在中阿部維巖来訪す、○菊池大麓より Japanese Education を送来る、○三上参次より「中興鑑言打聞」を返来る、○同文館より校正来る、○午后、有賀長雄より来状、○トイプ子ルより Die japanische Philosophie 式拾部を送来る、○赤井直好、木村隆法、広池千九郎より来状、○校正を弘道館に送る、○阿部維巖来訪す、○夜、校正を同文館に送る、○Paulsen, System der Ethik を読む、○此日、湊を山岸光宣宅に遣はす、

六日、午前、講習会に赴く、○姉崎正治より「花つみ日記」を送来る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○森良三郎来談す、○午后、引続き Paulsen を読む、○手塚光貴来訪す、○夜、勉強、○此日、安奉線改築問題に関し、我政府は自由行動を取ることを清国政府に通告せり、○松山直藏より来状、此日、齋藤信策逝く、享年三十二、

七日、午前、講習会に赴く、○同文館及び弘道館より校正来る、○午后、相良益次郎来訪す、○浦谷熊吉来談す、○夜、加藤玄智より絵葉書来る、○勉強、

八日、午前、亀谷聖馨より来状、○講習会に赴き、修了証書授与式を行ふ、○中西長次郎、豊田八十代等と会見す、○不在中大島正徳、水島耕一郎、田中義能来訪す、○午后、赤津正親、加藤岩造、

中島万次郎来訪す、○文明堂より「釈尊物語」を送来る、○辻本卯藏来談す、○夜、「教育と修養」の原稿を整理す、○此日、中熊直喜より来状、

九日、午前、若木広良、米林健造、堀田相爾来訪す、○吉村寅太郎及び中島万次郎より来状、○政教社より御札を送来る、○「教育と修養」の原稿を整理す、○午后、飯沼松枝、小林道彦、大倉書店より来状、○浦谷熊吉、小澤錦十郎来訪す、○校正をなす、○夜、芝田徹心より来状、○書状を大倉書店に、校正を同文館に送る、○此日、市村瓊次郎及び有馬祐政より絵葉書来る、

十日、午前、高橋仁、古川黄一、福地虎雄来訪す、○校正をなす、○飯沼松枝来訪す、○引続き校正をなす、○教科書会より書類来る、○井上友一より来状、○校正を弘道館に送る、○弘道館より「永日」を送来る、○「教育と修養」の原稿を整理す、○夜、湊、脚氣に罹り、病辱に苦しむ、渡辺真来診す、○堀田相爾来訪す、○近思録を読む、

十一日、午前、浦谷熊吉、堀田相爾、高橋正熊来訪す、○湊を大病院に送る、○午后、「学生宝鑑」五百部の奥附を大倉書店に付与す、○間端吾、浦谷熊吉来訪す、○野田義夫より来状、○電報を船越やすに送る、○弘道館の岸田某来談す、○船越やすより電報来る、○縫子、病院に赴く、○浦谷熊吉来り、尋いで病院に赴く、○十二時船越湊逝く、(明治二十六年四月十六日生る)

十二日、午前、浦谷熊吉、森良三郎、山田喜之助来訪す、○外崎覚より「外の濱風」を送来る、○宣光、正勝を拉して病院に赴く、

○船越やすに電報を送ること二回、やすより返電来る、○税務署長より通知書来る、○午后、直林敬円、堀田相爾、清水彦五郎、来訪す、○船越やす及び富田春山より電報来る、○近思録を読む、○書状を井上友一に送る、○夜、近思録及び講孟筭記を読む、十三日、午前、齋藤庸一郎、秋山悟庵来訪す、○江口津来訪す、有、故不遇、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○近思録を読む、○深作安文、静岡より絵葉書を送来る、○午后、三井銀行に赴く、○近思録及び Zeller, Philosophie der Griechen を読む、○夜、赤間富次郎及び乙竹岩造より絵葉書来る、○華嚴經、Apostelgeschichte 及び講孟筭記を読む、十四日、午前、Paulsen を読む、○原秀四郎来訪す、○井上成美婦来る、○船越やすより電報来る、○大学より葛岡敬雄の書状と大日本史料とを送来る、○八円七拾五錢を森本辰次郎に送る、○午后、浦谷熊吉、齋藤精輔、谷山初七郎来訪す、○引続き Paulsen を読む、○夜、華嚴經、近思録及び講孟筭記を読む、○此日、関西(近江美濃) 大地震、十五日、午前、武内紫明、金尾種次郎、清水駿太郎、杉浦重剛、建部遯吾来訪す、○吉田熊次より書状及び林檎苧箱を送来る、○近思録を読む、○午后、書状を菊池大麓、齋藤精輔、金尾種次郎、東敬治に送る、○手塚光貴来訪す、○文明協会より「家族論」を送来る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○講孟筭記を読む、○夜、講孟筭記及び華嚴經を読む、○野田麟太郎より来状、

十六日、午前、森良三郎、村上龍英来訪す、○近思録を読む、○午后、東敬治より速記を送来る、○松本文三郎、千野脩巳、堀田相爾、浦谷熊吉、森良三郎、来訪す、○崖下地所の境界を測定す、○近思録及び正蒙を読む、○夜、講孟筭記を読む、○船越やすより電報来る、○堀田相爾来訪す、○此日、大倉書店焼失す、○長谷川小四郎来訪す、以無紹介状不遇、十七日、午前、近思録を読む、○森良三郎来る、○湊の荷物を甘木に発送す、○佐々木信綱より来状、○午后、書状を大倉書店に送る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○岩上方外、来訪す、有故不遇、○夜、華嚴經、講孟筭記及び張子の正蒙を読む、○小峰孝容より来状、十八日、午前、植田弥吉より来状、○近思録を読む、○大島正徳来訪す、○午后、橋野正雄、豊田八十代、櫻井政隆、柴田甚五郎、石橋智信、東讓三郎、東亜協会々員となる、○講孟筭記を読む、○夜、淮南子及び講孟筭記を読む、十九日、午前、本居豊顕、森良三郎、清水谷善照来訪す、○近思録を読む、○午后、近思録及び講孟筭記を読む、○書状を佐々木信綱に送る、○武光信雄より来状、○原稿を浦谷ふみに托す、○小松靖太来訪す、以無紹介状不遇、○夜、角田松壽より来状、○淮南子及び講孟筭記を読む、二十日、午前、淮南子及び Hegel, Philosophie des Geistes を読む、○「古学哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○弘道館より講習会の残金四拾壹円九拾錢を送来る、○午后、Spinoza, Ethique

を読む、○荒川虎次郎より来状、○近思録を読む、○夜、引き続き近思録を読む、○エ、ピータルズより来状、

廿一日、午前、浦谷熊吉、森良三郎来談す、○近思録を読む、○巢鴨の大工来る、○山口英爾来る、○午后、近思録を読む、○本郷に赴き、各書肆を訪ひ、書籍五種を買求む、○Spinosa, Ethiqueを読む、○夜、前川文栄閣及び堀田相爾来訪す、

廿二日、午前、森良三郎、三島復、宮原龍見、江口国彦来訪す、○岩上方外来訪す、有<sub>レ</sub>故不<sub>レ</sub>遇、○辻本卯蔵、逗子より絵葉書二枚を送来る、○近思録を読む、○午后、城戸季雄来訪し、東亜協会々員となる、○近思録を読む、○英爾を遣はし、原稿を堀田相爾に付与せしむ、○高山昇、藤田季莊来訪す、○夜、書状を浦谷熊吉に送る、○坂井金次より来状、○華嚴経を読む、○此日、国書刊行会より書二部を送来る、

廿三日、午前、森良三郎来談す、○近思録を読む、○大日本統藏経二套（六七及び七四）を郵便局より受取る、○松村正一より来状、○午后、田貝定太郎、浦谷熊吉来訪す、○神田に赴き、各書肆を訪ひ、書籍數種を購求す、○不在中姉崎益子来訪す、○米林健造、中西長次郎、小林巴子、橋川篤子、石谷チヨ、田寺愛子、東亜協会々員となる、○夜、Knox, The Development of Religion in Japan を読む、○森鷗外の団子坂を読む、

廿四日、午前、矢野太郎、浦谷熊吉、森良三郎、深作安文来訪す、○深作安文に風水草を貸付す、○英爾を大学に遣はす、○午后、飯沼松枝、森良三郎等来訪す、○崖下の境界を定む、○近思録を

読む、○教界春秋を草す、○夜、教界春秋を浦谷熊吉に送る、○近思録を読む、

廿五日、午前、秦政二郎、石川松溪来訪す、○神田橋稅務署に赴く、○多賀羅亭に昼食す、フローレンツと遭遇す、○午后、福井嘉納来訪す、○飯沼松枝より来状、○近火あり、○不在中生田目経徳来訪す、○夜、近思録を読む、

廿六日、午前、家族一同稲毛の海氣館に遊ぶ、西田敬止と遭遇す、○夜、九時頃帰宅、○不在中秋月胤繼、梶井盛、生田目経徳来訪す、○加藤玄智より書状及び梨子一籠とを送来る、○藤田季莊より来状、

廿七日、午前、田中義能、生田目経徳来訪す、○近思録を読む、○書状を加藤玄智に送る、○同文館より「哲学大辞書」第一冊を送来る、○午后、近思録を読む、○小林郁より「社会心理学」を送来る、○浦谷熊吉来談す、○法学士加藤栄一郎、佐々木茂枝、古堀栄、文学士今井貞臣、東亜協会々員となる、○夜、張子の正蒙及び使徒行伝（第十六章）を読む、

廿八日、午前、秋月胤繼来訪す、○近思録（弁異端類）及び使徒行伝（第十七章）を読む、○秋月胤繼、東亜協会々員となる、○午后、使徒行伝（第十八章）を読む、○堀田相爾、福岡新三、森良三郎来訪す、○森良三郎に金參百円を渡す、○文部省より検定試験答案を送来る、○「家庭小説孝女白菊」出づ、○夜、試験答案を読む、○赤津正親来訪す、有<sub>レ</sub>故不<sub>レ</sub>遇、

廿九日、午前、長谷川福平、乃木希典、岩橋遵成、船田三郎、岩上

方外来訪す、○小澤錦十郎より来状、○午后、有賀長雄、小林恵祐来訪す、○小林恵祐をして談話を速記せしむ、○赤津正親来訪す、○夜、藤田季莊来訪す、○書状を円藤鎮に送る、○検定試験の答案を読む、○此日、雷雨、

三十日、午前、葛岡敬雄、葉山万次郎、東敬治、飯沼松枝来訪す、○午后、三井銀行に赴く、○赤津正親来談す、○書状を井上健児に送る、○夜、近思録を読む、○岩橋遵成より来状、○Fenollosaの碑文を作る、

卅一日、午前、中西牛郎、浦谷熊吉、横山良盛来訪す、○Fenollosaの碑文を作る、○藤井鄰、吉田豊吉来訪す、○午后、赤津正親来る、乃ち之に金拾五円を付与す、○Fenollosaの碑文を作る、○夜、堀田相爾来談す、○此日、Federigo EnriquesよりLa théorie de l'étatを送来る、○Manufacturers Life Insuranceより来状、

#### 九月

一日、午前、有賀長雄、川浪道三来訪す、○近思録を読む、○午后、第二の保険証をManufacturers Life Insurance Companyの総支配人ウキリアム、ハリスに送る、○書状を保々清音に、端書を小林郁に送る、○高木吾一、辻本卯藏来訪す、○近思録を読む、○井上健児より来状、○夜、吉田熊次夫妻来談す、○検定試験の答案を読む、

二日、午前、櫻井昭恵来訪す、○育成会の速記を訂正す、○英爾を東海銀行に遣はす、○井上健児より電報来る、○弘道館より「倫理と教育」三部を送来る、○午后、浦谷熊吉来訪す、○速記の訂

正を育成会に送る、○大井徹翁、東亜協会々員となる、○近思録を読む、○在北京の北村澤吉より来状、○夜、検定試験の答案を読む、○此日、植木屋来る、

三日、午前、有賀長雄、飯沼松枝、井上泰岳、有馬祐政、森良三郎来訪す、○「東亜の光」(四の九)成る、○縫子、須田眼科医院に赴く、○午后、近思録を読む、○文学社の橋喜代奈来談す、○文部省より試験の答案を送来る、○夜、堀田相爾来訪す、○近思録を読む、○此日、植木屋来る、

四日、午前、陳大齊、土井林吉の紹介状を携へて来訪す、○高瀬武次郎より来状、○福岡書店の孝女白菊詩を訂正す、○近思録を読む、○吉田夫妻、伊香保より絵葉書を送来る、○遠藤夏子、三輪索麴を携へて来訪す、○午后、飯沼松枝より来状、○近思録を読む、○書状を井上健児に送る、○葉書を磯江潤及び矢野太郎に送る、○検定試験の答案を読む、○福岡新三来る、乃ち之に「孝女白菊詩」の訂正を付与す、○浦谷熊吉来談す、○夜、使徒行伝第十九章を読む、○検定試験の答案を読む、

五日、午前、補永茂助、矢野太郎、萩原堯、西田幾多郎来訪す、○伊藤豊十より来状、○近思録を読む、○午后、近思録を讀了す、○女子の雑誌を二冊井上貞子に送る、○書類を有賀長雄に返す、○堀田相爾、中島泰藏来訪す、○使徒行伝第二十章を読む、○夜、使徒行伝第二十一章乃至第二十三章を読む、

六日、午前、森良三郎来りて門扉を修繕す、○二程全書を読む、○元良勇次郎より来状、○午后、書状を元良勇次郎に送る、○「東

亜の光」(四の九)をデニング及び土井林吉に送る、○三才社に赴き、Melanges Japonais 二冊を購求す、○夜、興学会に赴く、○不在中齋藤栄来訪す、○秋月胤継及び小笠原実成より来状、○此頃、小林庄一郎逝く、

七日、午前、齋藤栄、矢野太郎、浦谷熊吉、小林義則、山川正治来訪す、○大田黒作次郎より来状、○二程全書を読む、○午后、二程全書を読む、○書状を大島義脩に送る、○検定試験の答案を読む、○文部省より検定試験の答案を送来る、○買物に神田に赴き、富山房に過る、○縫子、成美宅に赴く、○夜、検定試験の答案を読む、○八日、午前、二程全書を読む、○「東亜の光」を読む、○午后、二程全書を読む、○堀田相爾来訪す、○検定試験答案を読む、○買物に本郷に赴く、○宮坂喆宗来訪す、○夜、検定試験答案を読む、○此日、日清協約発表せらる、〔頁下部に「信ずべき成功」(ペアリ)氏が北極探検を遂げた)の新聞記事切抜貼付〕

九日、午前、浦谷熊吉、木村隆法来訪す、○検定試験の答案を読む、○二程全書を読む、○志田義秀より「日本類語大辞典」を送来る、○午后、検定試験の答案を読む、○書状を小笠原実成に送る、○枝元長夫、常盤大定、藤岡作太郎来訪す、○夜、検定試験の答案を読む、○教員検定委員会より来状、

十日、午前、木村隆法来訪す、○検定試験の答案を読む、○二程全書を読む、○ピスキット各老缶を堀田相爾及び浦谷熊吉に送る、○井上波野、土産を携へて来談す、○午后、吉田豊より来状、○深作安文、飯沼源次郎来訪す、○丸善より洋書五種を送来る、

○検定試験の答案を読む、○吉田雪子来る、○Havelock Ellis, Studies in the Psychology of Sex を読む、○夜、八木光貫より絵葉書を送来る、○新公論社より来状、○検定試験の答案を読む、○十一日、午前、坂本嘉治馬来談す、○枝元長夫より談話筆記を送来る、乃ち之を訂正す、○午后、高濱健三(号長江)及び法学士小林弥之助、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉来談す、○筆記の訂正を枝元長夫に送る、○検定試験の答案を読む、○志田義秀より

来状、○吉田豊より統一枚を送来る、○陽明学会の使者高野壽児来訪す、○夜、検定試験の答案を読む、○検定委員会長より来状、○十二日、午前、加藤玄智、岩橋遵成、星野小次郎、得能文、藤澤周次、若木広良、近藤歌太郎、長谷川小四郎、萩原堯来訪す、○小笠原実成、藤田季莊より来状、○妻木直良、向軍治、東亜協会々員となる、○午后、有田邦雄、藤井健治郎来訪す、○服部宇之吉より来状、○書状を服部宇之吉に送る、○検定試験の答案を読む、○夜、勉強、

十三日、午前、大学に於て東洋哲学史概説の講義を始む、○武光信雄より来状、○午后、萩原堯、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○深澤伊三郎より来状、○島村瀧太郎、東亜協会々員となる、○夜、検定試験の答案を読む、○南葵文庫より来状、○Ellis, Studies in the Psychology of Sex を読む、

十四日、午前、書状を武光信雄に送る、○スピノザの Ethique を読む、○午后、堀田相爾、高楠順次郎来訪す、○葛西孝章、木村泰賢、増野悦興、東亜協会々員となる、○高山栄一死去の通知来る、○

外出中伊藤六蔵来る、○教科書会より書類来る、○夜、Ellisを読む、○勉強、

十五日、午前、羽田貞義より来状、○学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○不在中飯沼松枝来訪す、○弘道館より「六大先哲」を送来る、○夜、Ellisを読む、○此日、巢鴨の地所に家屋を建始む、○Ethical Societyより書類を送来る、

十六日、午前、哲学の講義に大学に赴く、○勉強、○午后、浦谷熊吉、吉田雪子来訪す、○夜、Krafft-Ebingを読む、○箕作佳吉逝く、十七日、午前、志田義秀より来状、○Dr. R. von Koerber 来訪す、○「修養上より見たる我れ」水戸市教育会々報に出づ、○検定試験の答案を読む、○午后、引続き答案を読む、○写真の種板を日報社の使者に付与す、○英爾を相原一郎介寓居及び東海銀行に遣はす、○箕作佳吉宅に赴き、弔詞を述ぶ、○葉書を吉田静致及び鈴木大拙に送る、○夜、辻本卯蔵来訪す、○「山鹿先生に就て」六大先哲に出づ、

十八日、午前、相原一郎介来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○哲学字彙の会に大学に赴く、○古川黄一來訪す、○「六大先哲」を松浦伯爵に送る、○午后、検定試験の点数会議を山上御殿に開く、○杉本美之助より来状、○書状を杉本美之助に送る、○金子馬治、融道玄、東亜協会々員となる、○田中義能の論文を読む、十九日、午前、箕作佳吉の葬式に谷中に赴く、○不在中遠藤隆吉、田中義能来訪す、○岩橋遵成、浦谷熊吉、飯島忠夫、峰間信吉、飯沼松枝、小川竹男来訪す、○午后、西田幾多郎、勝水淳行来訪す、

○田中義能の論文を読む、○夜、箕作家より礼状来る、○勉強、

二十日、午前、講義に大学に赴く、○不在中森良三郎来訪す、○午后、長谷川小四郎、葉山万次郎、姉崎正治来訪す、○野田義夫より絵葉書来る、○武光信雄より来状、○トイプ子ルより Allgemeine Geschichte der Philosophie を送来る、○高橋作衛より Reviews of Dr. Takahashi's recent work, "International law applied to the Russo-Japanese war" を送来る、○検定試験の成績及び答案を文部省の使者に付与す、○夜、研究会の速記を訂正す、

廿一日、午前、相良益次郎より来状、○桑木嚴翼、筒井助熊来訪す、○Spinoza, Ethik を読む、○午后、引続き、Spinoza を読む、○三井銀行に赴き、尋いで教科書会に文部省に赴く、○不在中樋口秀雄、常盤大定、高山昇、深田鶴松来訪す、○夜、堀田相爾来訪す、○此日、武笠三、東亜協会々員となる、

廿二日、午前、杉本美之助より来状、○学習院に赴く、○在京城の中村郁一より「はかくれ」一部及び書状を送来る、○常盤大定来状、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○不在中補永茂助、豊原清作、芝辻正晴来訪す、○吉田熊次、吉田静致、服部宇之吉より来状、○磯江潤来訪す、○大倉書店より「学生宝鑑」(第十一版) 式部を送来る、○矢吹慶輝、相原熊太郎、赤澤義人、東亜協会々員となる、○書状を教員検定委員会に送る、○教科書会より来状、○夜、休養、○此頃、事蹟談話等三日間、東京日々新聞に連載す、廿三日、午前、丸山通一、東亜協会々員となる、○森良三郎、塩谷温、三浦熊吉、辻本卯蔵来訪す、○村上静人、大町芳衛の紹介状

を携へて来る、○板垣政一死去の訃報来る、○寺尾壽、須崎緝作より来状、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○夜、心理学会に山上御殿に赴く、○此日、所得税総計四四、四五を区役所に納む、

廿四日、午前、電報を小笠原実成に送る、○金港堂より来状、○書状を金港堂に送る、○常盤大定、芝辻正晴来訪す、○「理想の配偶」毎日電報に出づ、○午后、豊原清作、岩橋遵成来訪す、○森良三郎、巢鴨の大工と共に来る、乃ち之に400を付与す、○「教育春秋」を草す、○辻本卯藏の使者来る、○夜、「教育春秋」を浦谷熊吉に送る、○雨、

廿五日、午前、九、二五上野発、○午后、一時過前橋師範学校に赴き、「国体と武士道」を演述す、羽田貞義（師範学校長）小笠原実成、佐藤孝三郎、（事務官）矢作徳三郎、佐藤穂三郎、毛呂佳太郎（参事会員）等と会見す、○四、○○頃出発、高崎に赴き、高崎より汽車にて帰る、○夜、九、○○過帰宅、○此日、不在中高橋正熊来訪す、○飯沼松枝より写真を送来る、○留岡幸助、小松原英太郎等より来状、○国書刊行会より書状と書籍とを送来る、○吉田夫妻来る、

廿六日、午前、松浦一、堀謙徳、清水谷善照、櫻井秀、補永茂助、藤井甚太郎、園池公顕、浦谷熊一、古城貞吉、水島耕一郎、田中義能来訪す、○午后、素行祭典に宗参寺に赴く、○不在中上田整次、丸山通一来訪す、○杉本与作来訪す、有故不遇、○奥田米翁来る、○夜、勉強、○此日、「我。国。徳。育。の。特。色」教育実験界に出づ、

○新潟札幌等に北光現はる、

廿七日、午前、講義に大学に赴く、○午后、講義に国学院大学に赴く、○大町芳衛より来状、○高島平三郎より絵葉書来る、○夜、丹羽瀧男来る、乃ち之をして筆記せしむ、○小笠原実成、有田義資より来状、○引続き北光現はる、

廿八日、午前、富山房より校正を送来る、○大谷嘉十郎より来状、○書状を小松原英太郎、上野陽一、及び一喝社に送る、○長谷川小四郎来訪す、有故不遇、○浦谷ふみ来る、○上田整次の送別会に大学山上御殿に赴く、○午后、史料編纂所に田中義成を訪ひ、宮本武蔵の肖像を観る、○校正を富山房に送る、○夜、神道研究会に山上御殿に赴く、

廿九日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に赴く、○不在中医学士黒澤良臣来訪す、○一喝社より書状と御礼と「禪と人生」とを送来る、○小牧昌業より余姚学苑と書状と菓子一箱とを送来る、○富山房より校正来る、○今泉丈助より来状、○柳沼弥右衛門より来状、○宇野哲人より絵葉書を送来る、○夜、新聞を読む、○此日、船越やすより縫子に書状を送来る、

三十日、午前、暁星学校より来状、○勉強、○中西長次郎より来状、○午后、講義に大学に赴く、○夜、小松原文相の招燕に文部大臣官邸に赴く、○不在中、浦谷熊吉来る、○丙午出版社より「修養の模範」を送来る、

十月

一日、午前、浦谷熊吉来談す、○田中鶴林、一色誠次郎、東亜協会々々

員となる、○金港堂より「中学修身」の備考を送来る、○校正を富山房に送る、○書状を柳沼弥右衛門及び白鳥庫吉に送る、○「宣教五十年紀念の感想」新人に出づ、○午后、大島直治来訪す、○教科書会に文部省に赴く、帰途幣原坦及び丹波敬三に電車内に逢ふ、○夜、新聞雜誌類を読む、

二日、午前、橋本精次、森良三郎来訪す、○哲学字彙の会に大学に赴く、尋いで元良勇次郎等と共に法医学教室に到り、屍臘シヤウ、木乃伊及び其他屍体を観る、○不在中東敬治来訪す、○「朱子哲学」五拾部「古学哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○同文館より「心理学通俗講話」を送来る、○午后、留岡幸助、磯江潤来訪す、○夜、日本学会に大学に赴く、来会者、約五拾名、○教科書会より書類来る、○此日、東敬治、八杉貞利、永井潜、富士川游、赤祖父順雷、東亜協会々員となる、

三日、午前、森良三郎、岩橋遵成、三島復、瀧精一、江部淳夫、黒澤良臣、岩田僊太郎、黒住宗武、天生目一治、山根直治郎、園池公顕、堀田相爾来訪す、○「東亞の光」(四の十)成る、○午后、津野老母、徳重ふさ子、及び浦谷熊吉来訪す、○夜、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、

四日、午前、堀謙徳より来状、○講義に大学に赴く、○午后、講義に国学院大学に赴く、○「女子修身」一百九拾部の奥附を金港堂に付与す、○長谷川小四郎来訪す、有故不遇、○夜、三刀谷扶綱来訪す、○書状を藤田季莊に送る、○富山房より校正来る、○校正を富山房に送る、○夜、校正をなす、○此日、張之洞逝く、

五日、午前、井上健児より来状、○校正をなす、○校正を弘道館に送る、○磯江潤来談す、○縫子、三井銀行に赴く、○午后、浦谷熊吉来談す、○同文館の筆記を訂正す、○夜、教員検定委員会及び山根真次郎より来状、○速記の訂正を同文館に送る、○此日、上野陽一より「実験心理学講義」を送来る、

六日、午前、磯江潤より来状、○学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○白鳥庫吉より来状、○富山房より校正来る、○藤澤利喜太郎来訪す、○夜、大井徹翁より来状、○校正を富山房に送る、○「修養宝鑑」の序を岩橋遵成に送る、○此日、「古事類苑」(方技部)来る、

七日、午前、電話使用料拾六円五拾銭を郵便局に納む、○写真の種板を齋藤榮に付与す、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○夜、帝国教育会に赴く、○音楽学校及び飯沼松枝より来状、○女大学講演の速記を訂正す、○弘道館より校正来る、○此日、不在中吉田熊次来る、

八日、午前、浦谷熊吉来訪す、○加藤熊一郎、海老名弾正、東亜協会々員となる、○校正を弘道館に送る、○研究会の速記を訂正す、○乙竹岩造より「新教授法」を送来る、○午后、国語調査会に文部省に赴く、○不在中服部志げ子来訪す、○夜、弘道館より新刊書籍三部を送来る、○研究会の速記を訂正す、○堀田相爾来談す、○報徳会より来状、○此日、間千代より縫子に書状を送来る、○松浦家より素行祭典報告を送来る、

九日、午前、速記の訂正をなす、○甘木より電報来る、富田老母死

去せらる、○原田種一及び福井嘉納来訪す、乃ち之と昼喰<sup>ツク</sup>を共にす、○小倉白洋、川田鏡弥来訪す、不<sup>レ</sup>遇、○速記の校正をなす、○文明協会より「近世名婦伝」を送来る、○夜、教科書会より来状、○速記の訂正をなす、

十日、午前、香典料拾円を封入して書状を富田春山に送る、○森良三郎、西田幾太郎<sup>ミヤ</sup>、小倉白洋、三島復、上野陽一、水島耕一郎、近藤歌太郎、中島泰蔵来訪す、○午后、内田安蔵より「婦人文庫」を送来る、○浦谷熊吉来る、乃ち之に速記の訂正を付与す、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○吉田雪子来る、○夜、Tiele, Elements of the Science of Religion 及び Michel Revon, Le Shintoisme を読む、

十一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、講義に国学院大学に赴く、○京華高等女学校の趣意書を訂正す、○文科大学より来状、○夜、趣意書を磯江潤に送る、○書状を井上健児に、端書を柳沼弥右衛門に送る、○端書を浦谷熊吉及び山根真治郎に送る、○「教育と経済」修身に出づ、

十二日、午前、松平乗統、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉、森良三郎来談す、○書状を鈴木貞太郎に、葉書を上野陽一に送る、○野口幽香子より妻に書状を送来る、○午后、中島泰蔵、東亜協会々員となる、○大島正徳、豊島要三郎来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○葉書を乙竹岩造に送る、○夜、帝国学士院に赴く、○深作安文、勝水淳行等より葉書来る、○金港堂より「中学修身」備考「総説」を送来る、

十三日、午前、学習院女学部に赴く、野口幽香子と会見す、○三上参次の使者来る、乃ち之に日本類語大辞典を付与す、○午后、教授会に赴く、○鈴木貞太郎より来状、○民友社より「狂雲集」を送来る、○金港堂より使者来る、○書状を金港堂に送る、○牧田徹梅来訪す、○夜、戊申詔書奉読講演に三会堂に赴く、○平田内相及び小松原文相、其他早川千吉郎、斯波淳六郎、横井時敬等と三会堂に会見す、○桑原隲蔵より葉書来る、○徳重ふさ子より妻に書状を送来る、

十四日、午前、羽田貞義より来状、○隆文館より「肥後文献叢書」(第二冊)を送来る、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○枝元長夫、松本景及び小松原文相より来状、○夜、太田英隆、齋木織三郎来訪す、○富田春山及び報徳会より来状、○此日、原田理一より来状、

十五日、午前、咽頭加答児に罹り、熱あり、○鈴木貞太郎、東亜協会々員となる、○渡辺真来診す、○午后、長谷川小四郎、東敬治、来訪す、不<sup>レ</sup>遇、○報徳会より御礼を送来る、○夜、毎日電報社より御礼を送来る、

十六日、午前、浦谷熊吉、勝水淳行来談す、○井上健児及び American Academy of Political and Social Science より来状、○縫子、巢鴨宮仲に赴く、○午后、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○豊原清作、田中義能より来状、○乃木希典、長谷川小四郎、原平吉来訪す、○釈義堂、印刷物を携来る、○文部省より教科書五冊を送来る、○夜、勉強、

十七日、午前、佐々木月樵及び西澤之助より来状、○三島復、魚住

影雄、祥雲確悟、矢野太郎、小林照朗、鈴木貞太郎、補永茂助、大島正徳、杉本与作、天生目一治、井伏太郎、遠藤隆吉来訪す、○佐々木月樵より「仏教辞典」を送来る、○文学社より使者来る、○午后、帝国女子専門学校より来状、○田中義能より「平田篤胤之哲学」を送来る、○田中義能の「神道哲学之発達」を読む、○夜、研究、○日本紀を読む、

十八日、午前、速記者杉山某、速記五冊を携来る、○講義に大学に赴く、○「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○午后、「大日本統藏経」二套を郵便局より受取る、○鈴木卓苗、櫻龍雄、東亜協会々員となる、○松村正一より写真を送来る、○浦谷熊吉来訪す、○国府種徳より書状及び原稿を送来る、○井上通泰より来状、○速記を訂正す、○葉書を田中義能及び佐々木月樵に送る、○縫子を三井銀行に遣はす、○夜、速記を訂正す、

十九日、午前、柳沼弥右衛門より来状、○森良三郎、大槻快尊来談す、○速記を訂正す、○「朱子哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○教科書会より書類来る、○午后、速記を訂正す、○「戊申詔書煥発後一週年に於ける感想」を内務省地方局国府種徳に送る、○大倉書店より印税を送来る、○富田春山より来状、○書状を柳沼弥右衛門に、葉書を枝元長夫、桑原隲蔵及び浦谷熊吉に送る、○Bradley, Appearance and Realityを読む、○弘学館より「鎌倉武士」を送来る、○夜、引続き、Bradleyを読む、○粒良市三郎より絵葉書二枚を送来る、○櫻井ちか及び国語調査会より葉書

来る、

二十日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○小村外相及び三井銀行より来状、○甘木より小包を送来る、○夜、櫻井ちか子来訪す、○此日、不在中丹羽瀧男来訪す、○同文館より校正来る、○吉田雪子来談す、○郁文館焼失す、○巢鴨家屋三軒出来す、

廿一日、午前、中澤敬男、左子清道、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉来談す、○西田政造及び小林照朗より松茸を送来る、○衆智画会及び西田政造より葉書来る、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○研究、○午后、講義に大学に赴く、○清国京師文科大学監督孫雄、大学に來訪す、○宮本正貫より「我々螺山人遺稿」を送来る、○得能文妻、菓実菴籠を携来る、○日本紀を読む、○夜、引続き日本紀を読む、○Tiele, Elements of the Science of Religionを読む、○吉田夫妻来談す、

廿二日、午前、有賀長雄、森良三郎、丹羽瀧男来訪す、○Tiele, Elements of the Science of Religion 及び日本紀を読む、○文明協会より「十九世紀科学之進歩」を送来る、○枝元長夫より来状、○午后、日本紀を読む、○石橋友次郎、原田秀泰来訪す、○友松某より松茸菴籠を送来る、○英爾を東海銀行に遣はす、○夜、書状を三井銀行に、校正を同文館に送る、○日本紀を読む、

廿三日、午前、哲学字彙の会に大学に赴く、○英爾を大学に遣はす、○教界春秋を草す、○不在中花沢浮洲来訪す、○午后、友枝高彦及び学習院女学部より来状、○法貴慶次郎、花沢浮洲、浦谷熊吉、

赤津正親来訪す、○岡田秀男、須野部量学、東亜協会々員となる、○丁酉倫理会に赴く、桑田熊蔵と会见す、○「社会教育上より見たる芸術」社会教育の研究に出づ、○「中学修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、休養、

廿四日、午前、七、○五両国出發、一〇、○頃群馬馬県太田町着、直に小学校に赴き、既にして高山神社、新田寺及び新田神社に参詣し、尋いで、一料理店に於て昼食を了へ、小学校に帰り、「武士道に就いて」講演をなす、小田野直清(郡長)天竺久真三(県視学)柳井松次郎(郡視学)馬場鐵、成田定三郎、葉住利蔵(副会長)田部井鹿蔵(小学校長)と会见す、○午后、三、四五太田町出發、○夜、八、○頃帰宅、○不在中加藤玄智、黒川真道、吉田豊吉、飯沼松枝、秋山悟庵、来訪す、○山崎甚一郎より絵葉書を送来る、廿五日、午前、講義に大学に赴く、○高木武、大学に来訪す、○午后、松井五郎、石井信次、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉、秋山悟庵、黒川真道来訪す、○縫子、吉田宅に赴く、○宮原龍見より葉書来る、○夜、教界春秋を浦谷熊吉に、東亜の光口絵を日清印刷会社に送る、○飯沼松枝及び明治火災保険会社より葉書来る、○枝元長夫より書状、○此日、宮内省より御招待状来る、廿六日、午前、磯江潤、吉田雪子来る、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○文科大学より書類来る、○午后、Spinoza, Ethique を読む、○書状を三井銀行に、葉書を富田春山、西田政造、友枝高彦、宮本正貫、宮原龍見等に送る、○飯沼松枝、村上静人来訪す、○早稲田大学出版部に金拾貳円五拾銭の為換を送り

て「漢籍国字解全書」の予約をなす、○児島猷吉郎、東亜協会々員となる、○史料編纂掛の使者来る、○公爵伊藤博文、哈爾濱に於て安應七の為に狙撃せらる、享年六十九、「頁下部に「兇漢と基督教」の新聞記事切抜貼付」○夜、帝國教育会より来状、○新聞雜誌類を読む、○教科書会より書類来る、○此日、「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、

廿七日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○不在中国書刊行会より来状、○飯沼松枝及び Dening 等より葉書来る、○夜、皆川朝吉より「東湖先生之半面」を送来る、○此日、不在中藤井健次郎来訪す、○大掃除をなす、○「国基題詠集」を乃木大将に返す、○浅倉屋より書籍數種を送来る、

廿八日、午前、研究、○金拾円の為換を平山信に、金五円の為換を緒方正規の為に送る、○原田秀泰より来状、○吉田静致より葉書来る、乃ち之に返書を送る、○電話工夫来る、○浦谷ふみ及び長谷川福平来る、○午后、中原司馬雄、浦谷熊吉来訪す、○講義に大学に赴く、○藤井健次郎、大学に来訪す、○武光信雄より来状、○夜、平田内相等より来状、

廿九日、午前、森良三郎来談す、○古事記を読む、○午后、中原司馬雄、早川純三郎、朝永三十郎来訪す、○古事記を読む、○夜、朝永三十郎の送別会に多賀羅亭に赴く、○古事記を読む、三十日、午前、古事記及び其他日本の古典を研究す、○吉田雪子来る、○午后、山岸光宣より絵葉書来る、○研究、○吉田静致及び田中稲城より来状、○英爾を金沢庄三郎及び鳥居龍蔵宅に遣はす、

○浦谷熊吉、加茂波作来訪す、○夜、小田野直清及び博文館より来状、○教科書会より書類来る、○鳥居きみ子来訪す、○書状を吉田静致及び服部宇之吉に送る、○筆記の訂正を博文館に送る、○研究、

廿一日、午前、熊切儀吉、宮崎虎之助、織田得能、及び筑前学友会の人來訪す、○研究、○午后、哲学会に大学に赴き、「日本神話の新解釈」を講演す、○夜、新聞を読み、休養をなす、

#### 十一月

一日、午前、講義に大学に赴く、○服部宇之吉より来状、○午后、吉田静致より来状、○浦谷熊吉、枝元長夫、堀田相爾来訪す、○新聞雑誌を読む、○岸田繁次郎来談す、○夜、教科書会及び小村外相より来状、○新聞雑誌を読む、

二日、午前、大森万次郎、西岡秀之助来訪す、○武光信雄より「蒲鉾」を包を送来る、○大森万次郎より林檎笥籠を送来る、○明治火災保険会社に八拾貳円七拾五銭を払込む、○午后、修身科本試験の問題を松浦鎮次郎に送る、○三井銀行に赴き、尋いで三越呉服店に入る、○加藤玄智来訪す、○夜、書状を熊切儀吉に送る、○坂本嘉治馬来談す、○報告書を学習院女学部に送る、○英国キチナー元帥来朝、

三日、午前、文科大学より来状、○浦谷熊吉、森良三郎来談す、○宮中に参内し、天長節の御宴に列す、○不在中東敬治来訪す、○午后、「東亞の光」(四の十一)成る、○葛岡敬雄来談す、○夜、新聞雑誌類を読む、○家庭学校より来状、

四日、午前、公爵伊藤博文の葬式に日比谷公園に赴く、○原田種一、池田二次郎より来状、○午后、間端吾、富田とらき、伊藤吉之助来訪す、○熊切儀吉及び産業組合中央会より来状、○伊藤吉之助、東亜協会々員となる、○夜、葉書を熊切儀吉、市島謙吉、亀谷馨、武光信雄に送る、

五日、午前、浦谷熊吉来談す、○服部宇之吉母堂の葬式に称名寺に赴く、○朝永三十郎より来状、○午后、Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○深作安文来訪す、○大谷嘉十郎より来状、○夜、枝元長夫より筆記を送来る、○夜、帝国学士院より来状、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○此日、天皇陛下、大演習の為、宇都宮に出御あらせらる、○大谷正信、出発、英国に赴く、○為換を其儘大谷嘉十郎に送返す、○六日、午前、書状を留岡幸助に送る、○筆記の訂正を枝元長夫に送る、○佐藤吉次来訪す、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○児輩、靖国神社に赴く、○午后、井上鑲来訪す、○井原豊作より来状、○縫子、外出して暖炉を買求む、○金式拾壹円七拾五銭の為換を丸善洋書店に送る、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○夜、国民文庫刊行会より来状、○引続々Tiele を読む、

七日、午前、豊島要三郎より来状、○天生目一治、高木武、西高辻信穉、松大路某、富田幹三郎、井原豊作、山鹿誠之助、浦谷熊吉来訪す、○山鹿誠之助、東亜協会々員となる、○午后、東亜協会第六回講演大会を法科大学三十二番教室に開く、非常の盛会なり、

○夜、東亜協会評議員会を山上御殿に開く、○此日、不在中安田勝藏来訪す、○喜田貞吉、平野久保、田辺尚雄、東亜協会々員となる、

八日、午前、講義に大学に赴く、○午后、浦谷熊吉、堀田相爾、西岡秀之吉、宮川宗徳、来訪す、○明治火災保険会社に対し、壹万五千円の家屋保険をなす、保険料総計百〇八円七拾五銭、○同文館より校正来る、○夜、帝国学士院、緑会弁論部及び故フェノロサ博士追悼会より来状、○校正を同文館に送る、○此日、葛岡敬雄より使者を遣はし来る、

九日、午前、黒坂達三、秋山悟庵来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○書状を国民文学刊行会に送る、○午后、金子堅太郎、新渡戸稲造、内田安蔵及び藤井正に書状を送る、○同文館より来状、○志賀重昂より「大役小志」を送来る、○哲学辞書の原稿を訂正す、○夜、引続き原稿を訂正す、○葉書を堀田相爾及び桑田芳蔵に送る、○吉田雪子来る、

十日、午前、森良三郎来談す、○学習院女学部に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、尋いて三上参次を史料編纂所に訪ひ、更に図書館に入る、○不在中長谷川福平より来状、○曾根松次郎、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉来談す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○夜、大田黒作次郎、吉田久兵衛より来状、○長江藤次郎より伯林の状況を報道し来る、○引続き Bradley を読む、○明治火災保険会社より「火災保険約款」を送来る、○山陰雜録を読む、

十一日、午前、研究、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○櫻井時太郎来訪す、○午后、講義に大学に赴く、○杉本美之助及び Harper H. Coates 来訪す、○修身科教員検定試験の答案、文部省より来る、○小野正尊より来状、○夜、検定試験の答案を読む、○日本紀を読む、○此日、天皇大演習より還御あらせらる、

十二日、午前、検定試験の答案を読む、○日本紀を読む、○研究、○夜、帝国学士院に赴く、○不在中西田敬止、安東省庵の書を携へて来訪す、

十三日、午前、日本紀及び古事記を読む、○浦谷熊吉来談す、○湯浅廉孫より「神官式年御遷宮沿革概覽」を送来る、○ストーヴを設置す、○波多野貞之助、東亜協会々員となる、○午后、古事記及び田中義能の論文を読む、○木山熊次郎、「国勢と教育」を携へて来訪す、○夜、「余の接したる偉人」修身に出づ、○吉田雪子来談す、○Tiele, Elements of the Science of Religion を読む、○同文館より来状、

十四日、午前、岩橋遵成、高木武、中島徳蔵、松浦一、高橋静虎、杉本美之助、田中義能、清水谷善照、安田勝藏来訪す、○生田目経徳より書状とスルメトを送来る、○城田龍より「大和義会宣言書」を送来る、○「伊藤公の性格」太陽臨時増刊に出づ、○The Development of Bushido 雜誌「大和魂」に出づ、○午后、黒川真道来訪す、○古語拾遺を読む、○縫子、兒女四人を拉して家族会に有楽座に赴く、○夜、桧垣辰次郎より来状、○古風土記及び

日本人種新論を読む、○研究、

十五日、午前、講義に大学に赴く、○小澤錦十郎、堀謙徳より来状、

○堀謙徳より原稿を送来る、○浦谷熊吉来談す、○坂本健一、東亜協会々員となる、○午后、丙午出版社より「国民と宗教」を送来る、○検定試験の答案を読む、○黒澤良臣より来状、○水道使用料金拾円五拾銭を区役所に払込む、○夜、明治火災保険会社より火災保険証券二枚を送来る、○哲学辞書の原稿を訂正す、

十六日、午前、原稿を訂正す、○Bradley, Appearance and Reality を読了す、○小澤錦十郎より梨壺箱を送来る、○内田安蔵より払出為換を送来る、○勝水淳行来訪す、○午后、地租八拾銭、家屋税拾貳円七拾九銭を区役所に納む、○検定試験の点数会議を山上御殿に開く、○試験成績を松浦鎮次郎に送る、○古川黄一、勝水淳行来訪す、○書状を西田敬止、長谷川福平に送る、○受取書を内田安蔵に送る、○夜、飯沼松枝来訪す、○書状を黒澤良臣及び小澤錦十郎に送る、

十七日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、尋いで哲学字彙の会に莅む、○大日本統藏経二套を郵便局より受取る、○志賀重昂及び人性学会並に素行会より来状、○野田義夫より絵葉書を送来る、○浦谷熊吉来談す、○松浦鎮次郎、武者小路公共、杉本美之助、鈴木繁次、大谷勝真、青木道、田中萃一郎、東亜協会々員となる、○夜、勉強、○黒澤良臣及び帝国教育会より来状、○此日、「女子修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、  
十八日、午前、検定試験を文部省に行ふ、○午后、引続き試験を行

ふ、○夜、漢学研究會に大学に赴き、白鳥庫吉の講演を聴き、尋いで評論をなす、

十九日、午前、引続き試験を行ふ、○午后、英爾を東海銀行に遣はす、○清水谷善照、吉田雪子、前川又三郎来訪す、○縫子、雪子と共に成美宅に赴く、○研究、○夜、研究、

二十日、午前、研究、○浦谷熊吉、田原純一來訪す、○島田鈞一、牧野英一、東亜協会々員となる、○午后、正一時より研究会を大山上御殿に開き、論語を評論す、来会者約三拾名、○工藤一記、村岡素一郎、東亜協会々員となる、○不在中山方泰来訪す、○夜、新聞雑誌を読む、

廿一日、午前、松村正一より来状、○武内紫明、古川黄一、堀謙徳、東敬治、豊原清作、花輪郡藏、山方泰、西高辻信稚、遠藤隆吉、原平吉、齋藤木及び Harper H. Coates 等来訪す、○午后、贈位先哲祝典大会に高等商業学校に赴き、一場の演説をなす、○不在 Joseph Cotte 来訪す、○夜、古事記を読む、○此日、「中学修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、

廿二日、午前、櫻井ちか子より菓子と書状とを送来る、○講義に大いに赴く、○午后、清水谷善照、浦谷熊吉、安田勝蔵来訪す、○原稿を訂正す、○同文館及び齋藤儀八宅より来状、○夜、引続き原稿を訂正す、○亀谷聖馨より来状、

廿三日、午前、金港堂より来状、○櫻井ちか子、千葉亀雄、若木広良来訪す、○齋藤木より来状、○午后、田中義能、元良勇次郎来訪す、○安田勝蔵来る、乃ち之をして速記せしむ、○孔子の事に

関する原稿を同文館に送る、○夜、書齋の整理をなす、

廿四日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、

○不在中戸川安宅、森良三郎来訪す、○志賀重昂及び千葉龜雄より来状、○飯沼松枝より葉書来る、○原稿を同文館に送る、

○夜、黒川真道より書状及び目録を送来る、○原稿を千葉龜雄に送る、

廿五日、午前、清野長太郎より来状、○勉強、○John Tyndall,

Scientific Materialism を読む、○所得税三八、○四及び附加税六、

四〇合計四四、四四を区役所に納む、○午后、講義に大学に赴く、

○英爾を大学に遣はす、○同文館より校正来る、○浦谷熊吉来談す、○金港堂より使者来る、○菅家伝の謄写成る、○夜、菅家伝を武光信雄に送る、○校正を同文館に送る、○「東亞の光」口絵を日清印刷会社に送る、○古事記伝を読む、

廿六日、午前、「教界春秋」を草す、○森良三郎来談す、○小林照朗より来状、○水上齋、東亜協会々員となる、○黒龍会より「西南記伝」中卷(一二)を送来る、○「論語の宗教的情味」読売新聞に出づ、○午后「教界春秋」を日清印刷会社に送る、○嘉納治五郎より「左氏会箋」を送来る、○岩橋遵成、黒川真道、吉田雪子来訪す、○夜、心理学会に山上御殿に赴く、○古事記伝を読む、

○小石川区役所より来状、

廿七日、午前、笹川種郎来訪す、○尾原亮太郎より来状、○文科大學より使者来る、○文明協会より「英国植民史」及び「国民功業論」を送来る、○Tiele, Elements of Religion of Science を読む、

○午后、南滿州鉄道会社支社に赴き、白鳥庫吉の講演を聴く、○

不在中小林義則、尾崎熊太郎来訪す、○博文館及び哲学会より来状、○古事記伝を読む、○夜、Tiele, Elements of Religion of Science を読む、○田中義能の論文を読む、

廿八日、午前、東敬治、古川黄一、山方泰、齋藤栄、堀尾太郎、岩橋遵成、陳大齋、原平吉、浦谷熊吉、辻本卯藏来訪す、○午后、

原田直次郎紀念会に精養軒に赴く、徳富猪一郎、朝比奈知泉、江木千之等と会见す、○哲学会に大学に赴く、○夜、八時頃帰宅、

○田中義能の論文を読む、○此日、英爾をして濱村蔵六の葬式に合せしむ、

廿九日、午前、講義に大学に赴く、○不在中橘喜代松来訪す、○午后、尾原亮太郎より来状、○Höffding, Psychologie in Umrissen を読む、○橘喜代松来訪す、○大島正徳より速記を送来る、○教科書会より書類来る、○夜、引続き Höffding を読む、○雷雨、○

此日、不在中石橋友次郎、鶏卵素麵を携へて来訪す、

三十日、午前、小林義則、来訪す、○三井銀行に赴く、○午后、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、神道研究会に山上御殿に赴く、○菟田茂丸、東亜協会々員となる、○不在中大谷嘉十郎より書状及び論文を送来る、○此日、高松四郎と山上御殿に会见す、

## 十二月

一日、午前、実業之世界社より来状、○枝元長夫及び山中立木より葉書来る、○学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、

尋いで哲学字彙の会に莅む、○不在中戸川安宅より使者来る、○岩橋遵成来訪す、○瀧口了信、東亜協会々員となる、○夜、国語調査会より書類来る、○帝国学士院より来状、○葉書を山中立木及び戸川安宅に送る、

二日、午前、Nägeli, Mechanisch-Physiologische Theorie Der Abstammungslehre を読む、○午后、引続き Nägeli を読む、○古川黄一、磯江潤来訪す、○講義に大学に赴く、○田中義能の論文を読む、○心理学通俗講話会より案内状来る、○夜、田中義能の論文を読む、

三日、午前、田中義能の論文を読む、○丹羽瀧男に談話を速記せしむ、○午后、浦谷熊吉来談す、○杉山富槌、東亜協会々員となる、○国語調査会に文部省に赴く、○田中義能の論文を読む、○夜、日本紀、琉球之研究及び田中義能の論文を読む、○笹川種郎より来状、○此日、Rudolf Lange, Japanische Wappen 及び Über einige Besonderheiten der Schreibweise der chinesischen Schriftzeichen in Japan を送来る、

四日、午前、Tolstoy, What is Art? を読む、○午后、音楽学校に赴き「芸術と道徳」を講述す、○田中義能の論文を読む、○夜、田中義能の論文を読む、○此日、豊屋来る、○此日、豊屋来る、五日、午前、山方泰、鎌田政秀、浦谷熊吉、尾崎熊太郎、古川黄一、齋藤栄来訪す、○穂積重遠、鳩山秀雄、藤井甚太郎、竹林中、橋本増吉、東亜協会々員となる、○名法要集を読む、○「東亜の光」(四の十二)成る、○午后、日本紀及び名法要集を読む、○川村北溟

来談す、○平川謹一郎より来状、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○飯島忠夫、東亜協会々員となる、○生田目経徳より来状、○此日、豊屋来る、○帝国学士院より来状、

六日、午前、渡部董之介より来状、○講義に大学に赴く、○午后、書状を富山房に送る、○富山房より来状、○西高辻信稚来訪す、○黒田家より鴨四羽を送来る、○Nägeli, Die Schranken der naturwissenschaftlichen Erkenntnis を読む、○丹羽瀧男及び安田勝蔵よりそれぞれ速記を送来る、○夜、速記を訂正す、○文科大学より来状、

七日、午前、佐々木信綱より書状及び原稿を送来る、○浦谷熊吉、姉崎正治母来談す、○Nägeli, Die Schranken der naturwissenschaftlichen Erkenntnis を読む、○文学社より「中学修身」の原稿を送来る、○午后、鎌田政秀来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○深作安文来訪す、○引続き Nägeli を読む、○Hoffding, Psychologie in Umrissen を読む、○教科書会より来状、○夜、吉田雪子、堀田相爾来談す、○速記の訂正を金港堂に送る、○此日、宰府実母の五十年忌に当る、○浅間山大噴火、

八日、午前、学習院に赴く、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○不在中協定吉来訪す、○明治書院より「日本書紀通釈」六冊を送来る、○夜、Hoffding, Psychologie in Umrissen を読む、○賀陽宮邦憲王薨去、カヤノミヤクニノリ九日、午前、帝国教育会より「名誉会員推薦状」を送来る、○古川黄一、辻村鑑来訪す、○Haeckel, Weltrathsael を読む、○午后、

引続き *Weltatlas* を読む、○浦谷熊吉及び豊島要三郎来訪す、  
○葉根譚を読む、○夜、葉根譚及び名法要集を読む、○此日、文  
学社より「中学修身」の原稿を送来る、

十日、午前、武光信雄より来状、○長谷川福平、小林義則、浦谷熊  
吉来訪す、○大倉書店より「結婚新説」及び「科学と臆説」を送  
来る、○東亜協会の速記を訂正す、○阿部維巖より蜜柑壺箱を送  
来る、○尾上八郎より兎壺匹を送来る、○三井芳太郎、細谷香水、  
吉野作藏、東亜協会々員となる、○午后、教科書会に文部省に赴  
く、○有馬祐政来訪す、○速記を訂正す、○文科大学及び報徳会  
より来状、○夜、速記を訂正す、○陽復記を読む、

十一日、午前、阿部維巖、辻村鑑より来状、○東亜協会の速記を訂  
正す、○陽復記を読む、○午后、原平吉、山方泰、磯江潤来訪す、  
○速記を訂正す、○夜、辻本卯藏来談す、○陽復記を読む、

十二日、午前、豊島要三郎、岩橋遵成、辻村鑑、伊藤吉之助、岡田  
恒輔、加藤玄智、岡部龍玄、脇定吉、蔭山義三郎来訪す、○辻村鑑、  
東亜協会々員となる、○午后、浦谷熊吉来談す、○陽復記を読む、  
○書状を実業之世界社に送る、○夜、帝国学士院に赴く、○陽復  
記を読了る、

十三日、午前、講義に大学に赴く、○深作安文より来状、○午后、  
元良勇次郎、伊藤吉之助より来状、○高山昇、星野彬来訪す、○  
開発社及び毎日電報社より原稿を送来る、○家秘を読む、○勉強、  
○夜、勉強、○此日、加藤秀一より絵葉書を送来る、

十四日、午前、大槻快尊、豊島要三郎来訪す、○豊嶋要三郎と共に

高輪の仏教中学に赴き、「赤穂義士に就いて」演述す、龍口了信、  
田淵友彦、加藤教学等と会见す、○午后、二時頃帰宅す、豊島要  
三郎送来る、○三澤斜、浦谷熊吉、吉田雪子来訪す、○清子、雪  
子と共に間端吾宅に赴く、○夜、新聞を読む、○此日、元良勇次  
郎より来状、

十五日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、  
尋いで哲学字彙の会に莅む、○夜、書状を飯沼松枝に送る、○同  
文館の速記を訂正す、

十六日、午前、速記の訂正を同文館に送る、○広池千九郎来訪す、  
○文部省及び家庭学校より来状、○Haackel, *Weltatlas* を読む、  
○午后、講義に大学に赴く、○夜、菊池大麓の送別会に山上御殿  
に赴く、○此日、漢字統一会より「同文新字典」を送来る、○「大  
日本統藏経」二套を郵便局より受取る、

十七日、午前、浦谷熊吉来談す、○清水満之助より鶏卵箱を送来る、  
○英爾を文部省に遣はす、○午后、原稿を浦谷熊吉に送る、○浦  
谷熊吉、大槻快尊、来訪す、○渡邊真、春枝及び益之進の為に来  
診す、○齋藤基次郎より鴨二羽を送来る、○夜、速記の訂正を開  
発社に送る、○渡邊真の代診来る、

十八日、午前、金港堂より来状、○筆記の訂正を毎日電報社に送る、  
○論語研究の速記を訂正す、○江部淳夫より「文明論」を送来る、  
○午后、荒浪市平来る、乃ち之をして談話を速記せしむ、○論語  
研究会の速記を訂正す、○吉田熊次及び *Federigo Enriques* より  
来状、○夜、引続き速記を訂正す、○教科書会より来状、

十九日、午前、英爾を吉田宅及び浦谷宅に遣はす、○中島徳藏、武内紫明、生田目経徳、長谷川誠也、田中義能、近藤歌太郎、浦永茂助、阿藤恵風、岩橋遵成、瀧口了信来訪す、○同文館より反物一反及び文房具一箱を送来る、○午后、教界春秋を草す、○井上頼国より壽筵書類を送来る、○夜、哲学会上山御殿に赴く、○此日、白耳義国皇帝レオポール第二世崩す、○春枝及び益之進病気稍々軽快、

二十日、午前、講義に大学に赴く、○文学社より鶏卵箱を送来る、○教界春秋を草す、○「大日本古文書」(家わけ第三)を受取る、○午后、「新編倫理」二百部の奥附を金港堂に付与す、○「陽明哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○関根孝三郎より「赤穂義士家庭」を送来る、○哲学会の速記を訂正す、○浦谷熊吉来談す、乃ち之に「教界春秋」を付与す、○富山房より「東亜の光」口絵を送来る、○林平次郎よりビール壺打を送来る、○渡辺真来診す、○夜、速記を訂正す、○隆文館より「鴨二羽」を送来る、  
廿一日、午前、速記を訂正す、○矢野太郎来談す、○江尻庸一郎より来状、○午后、森良三郎、大島正徳来訪す、○速記を訂正す、○富山房より歳暮の贈物と印税とを送来る、○英爾を鴻池銀行に遣はす、○教科書会より書類来る、○夜、元良勇次郎より「論文叢」を送来る、○速記を訂正す、○水島耕一郎より来状、○瀧精一、東亜協会々員となる、  
廿二日、午前、大槻快尊来訪す、○学習院女学部へ赴く、○不在中  
笹川老母来訪す、○有賀長雄より「故フェノロサ博士追悼法会々

記」を送来る、○午后、書状と原稿とを中島徳藏に送る、○文学社の「中学修身」を訂正す、○韓国総理大臣李完用、刺客李在明の為に刺さる、○夜、尾上八郎、中島泰藏来訪す、○「中学修身」を訂正す、

廿三日、午前、「中学修身」式百部の奥附と「訂正中学修身」の原稿を文学社に付与す、○大槻文彦より「伊達騒動実録」を送来る、○英爾を大学に遣はす、○英爾大学より学習院に赴く、○哲学辞書の原稿を草す、○宮内省の招待状来る、○Walter Denningより Confucian Philosophy in Japan を送来る、○午后、堀田相爾、深作安文、加藤玄智来訪す、○石川栄司、河出静一郎、岩橋遵成より贈物来る、○上野直照、東亜協会々員となる、○原稿を草す、○夜、引続き原稿を草す、○宮内省より来状、

廿四日、午前、小石川区役所より来状、○森良三郎、浦谷熊吉来談す、○原稿を草す、○三省堂より鶏卵箱を送来る、○宣光英爾共に感冒に罹る、○午后、「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○引続き原稿を草す、○前川文栄閣、大和田真彦、吉田雪子、富田虎喜来訪す、○「釈迦牟尼伝」五百部の奥附を前川文栄閣に付与す、○佐々木信綱よりビール半打、同文館より文房具、齋藤製作所よりビール半打を送来る、○夜、原稿を同文館に送る、○金港堂より印税を送来る、○此日、帝国議会開会せらる、  
廿五日、午前、黒川真道より「日本教育文庫書目案」を送来る、○宮内省に赴き、賜物を受く、○午后、縫子、東海銀行に赴く、○東海林辰三郎来訪す、○哲学字彙の会に大学に赴く、○夜、心理

学会に山上御殿に赴く、○三宅鉦一、東亜協会々員となる、○伊藤伊之助より来状、○国民文庫刊行会より「源氏物語」上巻を送る、○不在中岩田僊太郎、真綿を携来る、○吉田雪子来る、○学習院女学部より御札を贈来る、

廿六日、午前、若木広良、松浦一、西田幾太郎、豊島要三郎、羽山好作、来訪す、○生田目経徳より使者来る、○午后、植村道次郎、林政穂、黒川真道、姉崎益子来訪す、○原秀四郎より菓子箱、大倉書店よりビール壺打を送来る、○夜、「中学修身」を訂正す、○弘道会より来状、

廿七日、午前、古川黄一及び浦谷ふみ来訪す、○弘道館より鶏卵箱を送来る、○宣光英爾共に軽快、○伊藤伊之助より野菜を送来る、○午后、深作安文、融道玄、桑田芳蔵、美馬一致来訪す、○「山鹿素行先生」の緒言を草す、○縫子、春枝を拉して買物に神田に赴く、○夜、松浦一、及び文科大学より来状、○富山房より「明治教育思想史」を送来る、○書状を古川黄一に送る、○此日、「中学修身」の訂正を文学社に付与す、○依田百川逝く、享年七十七、

廿八日、午前、森良三郎、鈴木三重吉来訪す、○婦人画報社より砂糖の大箱を送来る、○英爾を浪花銀行に遣はす、○小杉熙より書状及び魚餅を送来る、○縫子、子女を拉して買物に赴く、○「論語に現はれたる宗教的情味」毎日電報に出づ、○午后、浦谷熊吉、樋口秀雄、東讓三郎、原平吉来訪す、○濱田健次郎より来状、○夜、「御即位式大嘗祭式図説」の序を草す、○「襲国偽僭考」を読む、

○此日、反物を齋藤儀八に送る、

廿九日、午前、文部省より「教育勅語訳纂」を送来る、○「御即位式大嘗祭式図説」の序を生田目経徳に送る、○浦谷熊吉、黒住宗武来訪す、○在ライブチヒ府上田整次より絵葉書来る、○「襲国偽僭考」を読む、○午后、高橋虎豹太、西田敬止来訪す、○村田五郎より鯉節、六盟館よりハンケチ二打を送来る、○「襲国偽僭考」を読む、○清子を拉して博品館に赴く、坪井正五郎に逢ふ、○文明協会より「近時の経済変動」を送来る、○夜、「襲国偽僭考」を読む、

三十日、午前、「襲国偽僭考」を読む、○教科書会より書類来る、○水島耕一郎、森良三郎来る、○三井銀行に赴く、○午后、三菱銀行に赴く、後藤牧太に逢ふ、○多賀羅亭に之き、昼食を畢へて帰る、○婦人画報を井上貞子、吉武静子、井上志げ子に送る、○菓子箱を富田春山及び井上道喜子に送る、○不在中井上円了及び岩崎歌郎来訪す、○清子、真綿を携へて姉崎宅を訪ふ、○暁星学校より来状、○夜、雑事をなす、○小澤錦十郎より賀状来る、

卅一日、午前、松尾佺次郎、堀田相爾、芝田徹心より来状、○井上成美、田中義能来訪す、○元良勇次郎宅より菓子箱壺筒及び干柿壺筒を送来る、○佐々木信綱に鶏卵箱を、小林一郎に菓子とハンケチを送る、○午后、弘道館より「吉田松陰」樋口秀雄より「社会政策と近世科学」、帝国教育会よりビール壺打、伊澤修二宅よりビール半打及び半襟、富尾木知佳より葡萄酒二本を送来る、○マニユファクチュラス生命保険会社員池田三男也来る、乃ち之

に保険会を払ふ、○三並良来訪す、○英爾を浦谷宅に遣はず、○夜、国民新聞社よりビール壺箱を送来る、○英爾を買物に遣はず、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を瞥見するに、購入書籍総計八拾壺部（内洋書拾壺部）○寄贈書類総計百八拾貳部（貳百四拾壺冊）○七月以後の教科書検印数は女子八百九拾、師範四百、倫理壺百、中学四百、之を六月以前の分と合計すれば、六万九千九百拾参部、（以上金港堂）○六月以後文学社検印数ハ六百、之を六月以前の分と合計すれば、壹万四千四百八拾○兩者を合計すれば、七万六千参百九拾参部、○其他六月以後の検印は勅語衍義一千、学生宝鑑五百、釈迦牟尼伝五百、陽明二百、古学一百、朱子五拾、○一年間総発行部数八万貳千八百四拾参部、○「東亜の光」十二月発行部数貳千六百部、

年末到来品如左

葡萄酒二ビン	富尾木	ビール壺箱	政教社
真綿	岩田僊太郎	兎	尾上八郎
鴨四羽	黒田侯爵	鶏卵箱	三省堂
砂糖壺樽	文栄閣	砂糖大箱	東京社
ハンケチ二箱	六盟館	鴨二羽	基次郎
菓子箱	田中義能	ロジー子	磯辺弥一郎
ビール半打	齋藤製作所	蜜柑壺箱	森良三郎
蜜柑壺箱	阿部維巖	菓子箱	深作安文
鶏卵箱	弘道館	真綿に梅乾	植田弥吉
ビール壺打	帝国教育会	鯉節	村田五郎

菓子と乾柿	元良勇次郎	ビール壺箱と半襟	伊澤
蜜柑箱	勝田吉次郎	反物一反	堀田相爾
絹切レ	石川栄司	紋羽二重と文房具	同文館
干柿と菓子	姉崎	魚餅	小杉熙
魚煎餅	吉田熊次	台湾野菜	伊藤伊之助
醤油二ビン	伊藤六三	鶏卵箱	富山房
菓子箱	浅倉屋	ビール半打	佐々木信綱
ビール半打	林平次郎	鶏卵箱	文学社
鶏卵箱	清水満之助	漬物	成美堂
ビール壺打	大倉書店	縮緬壺反	成美
反物一反	磯江潤	菓子箱	原秀四郎
蜜柑箱	岩橋遵成	鴨二羽	隆文館
鮭	村松		